

マツダ財団支援

# 市民活動報告書

第37回（2021年度）

「マツダ財団支援 市民活動報告書 第37回（2021年度）」 発刊について

当財団では、設立趣意書に込めた「人々が共に繁栄を分かち合い心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与する」ことを目的に、「科学技術の振興」と「青少年健全育成」を2本の柱として様々な支援を行っています。

この報告書は、当財団より2021年度に支援を受けられ青少年健全育成に取り組まれた市民団体の活動を紹介するものです。

当該市民活動支援は、次代を担う子どもたちが、いろいろなことに興味を持ち多くの感動を得ることのできる体験機会の提供や地域社会のコミュニティづくり等に尽力されている非営利市民団体による諸々の活動に対して支援しています。

対象分野

- ・ ボランティア育成
- ・ 地域連帯、コミュニティづくり
- ・ 若者の居場所づくり
- ・ 自然とのふれあい
- ・ 国際交流・協力
- ・ 科学体験・ものづくり

支援金総額 800万円 （10万円～50万円/団体）

支援件数 29件 （コロナ禍の影響で前年度から延期された8団体を含んだ37団体の内、12団体が来年度に延期、2団体は断念し辞退されましたので、23件の活動報告となります。）

支援期間 2021/4/1～2022/3/31

活動地域 広島県・山口県

なお、報告内容は、各団体から提出されたものです。

# も く じ

## 1. 活動報告書

No.	対象分野	活動名	団体名	活動拠点	支援金額 (万円)	ページ
1	地域連帯・コミュニティづくり	『BFC教本』の作成、及び『階級制度』の導入	府中町青少年少女消防クラブ (BFC)	広島県 安芸郡府中町	16	1
2	地域連帯・コミュニティづくり	地域に誇りを持つ青少年の養成を実現する防災士による地域防災活動	一般社団法人 ひろしま防災減災支援協会	広島県 広島市安佐北区	13	3
3	地域連帯・コミュニティづくり	ふかわ子ども食堂	ふかわ子ども食堂	広島県 広島市安佐北区	15	5
4	地域連帯・コミュニティづくり	子どもの放課後学習支援	宿題やつつけ隊	広島県 広島市佐伯区	27	7
5	科学体験・ものづくり	ペーパークラフトロケット教室	ひろしまCaNDo (かんどう) プロジェクト	広島県 広島市佐伯区	34	9
6	地域連帯・コミュニティづくり	多世代交流広場 えん	江波地域共生社会プロジェクト えん	広島県 広島市中区	27	11
7	地域連帯・コミュニティづくり	#3つのCプロジェクト	ピアサポート子育て相談センター	広島県 広島市中区	32	13
8	地域連帯・コミュニティづくり	出張!ぼくらの町2021 冬	一般社団法人 広島国際青少年協会	広島県 広島市中区	32	15
9	地域連帯・コミュニティづくり	ヒロシマ復興 絵おと芝居の小学校・公民館巡回公演	一般社団法人 まち物語制作委員会	広島県 広島市西区	32	17
10	科学体験・ものづくり	臨床美術からのアプローチ ～発達障がいを持つ子ども達と保護者へ～	ひろしま美術研究所 アルセンス	広島県 広島市南区	39	19
11	自然とのふれあい	コロナ禍における森・里・川・海の環境保全活動 ～家族単位と分散で3密防止～	永田川カエル倶楽部	広島県 江田島市	10.5	21
12	科学体験・ものづくり	綿花栽培から世界に一つの手織りハンカチ作り	チーム豆っこ	広島県 東広島市	36	23
13	科学体験・ものづくり	地域の生産者を応援するためのアイデアを形にするプログラミング教室	近畿大学工学部 教育情報システム研究室	広島県 東広島市	38	25
14	地域連帯・コミュニティづくり	空き家利活用の「居場所」運営 「学習支援」「こども食堂」「多世代交流サロン」	浦崎地区社会福祉協議会 UMEプロジェクト	広島県 尾道市	38	27
15	地域連帯・コミュニティづくり	子どもたちの力でふるさと再発見 ～つたえよう、ひろめよう備後餅音頭～	備後餅音頭をつなぐ会	広島県 福山市	18	29
16	ボランティア育成	山災塾 ～2期生若者対象災害ボランティア育成プロジェクト～	災害復興支援団体 山口災害救援	山口県 岩国市	20	31
17	地域連帯・コミュニティづくり	Iwatan子育て愛ねっとアカデミー	岩国子育て支援ネットワーク	山口県 岩国市	32	33
18	地域連帯・コミュニティづくり	山口市在住の高校生を対象とした社会貢献アクションを通じて次世代のリーダーを育てる活動 ～マイ・チャレンジ～	やまぐちトップランナープロジェクト (YTP)	山口県 山口市	38	35
19	地域連帯・コミュニティづくり	子ども達の野菜づくり体験 ～植え付けから成育、収穫まで～	囲炉裏の会	山口県 山口市	20	37
20	自然とのふれあい	小学生の竹林体験学習サポート活動	竹林ボランティア倶楽部	山口県 長門市	16	39
21	地域連帯・コミュニティづくり	須佐地域の魅力再発見プロジェクト	須佐地域の魅力再発見プロジェクト実行委員会	山口県 萩市	28	41
22	地域連帯・コミュニティづくり	ほうふのれきしを知ろう!なぜ?なに? ～ミュージアム for キッズ～	古文書を読む会	山口県 防府市	10	43
23	地域連帯・コミュニティづくり	埴生地区の「ねがいをカタチに」 ～地域x学校をむすぶ、まちづくりの実践～	ハーブねっと本部	山口県 山陽小野田市	33	45

## 2. 終了時交流会

i

## 3. 公募～報告書冊子発行までの流れ

iii

## 4. 応募&採択に関するデータ

iv

活動名	No. 1	団体名	府中町少年少女消防クラブ
『BFC 教本』の作成、及び『階級制度』の導入		活動拠点	安芸郡府中町
		代表者	浦田 義昭
		支援金額	16万円
団体紹介	<p>府中町少年少女消防クラブ（BFC）は、将来の地域防災を担う人財育成を目的として、1998年7月に結成されました。活動を通して、子供たちに礼儀や規律力・協調性・自律性を身に付けさせ、防火・防災の知識を持ったリーダーへと成長できるよう、『防火・防災』、『消火・救急』などの訓練や研修を主に府中町消防署で行うほか、町内での防火・防災イベントや清掃事業にも参加し、社会貢献を通して地域・社会に役立つ喜びも経験しています。</p> <p>現在の構成メンバーは、小学生12名、中学生9名、高校生2名のクラブ員、11名のボランティア指導員です。中学校が小学生を指導し、小学生の中でも上級生が下級生をまとめ、中学生は高校生が指導しています。</p> <p>クラブの企画・運営及び活動全体の指導と補助は指導員が担い、企画・運営においてはジュニア指導員である高校生も参加しています。それぞれの役割を持ったクラブ員同士が行動を共にし、成長と共に役割も変化していく人財育成の場としています。</p> <p>これまで消防士や消防団員を輩出しており、実際にこの先輩達を目指している子も数名います。</p>		
活動概要	<p>① 4/11(日) 消防署にて、BFC 総会：活動方針の決定、年間行事の確認（参加人数：11名）</p> <p>② 7/10(土) 消防署にて、リインテーンション：入団式、自己紹介、はしご車搭乗体験、ポスター配布等（11名）</p> <p>③ 7/11(日) 消防署にて、リインテーンション：入団式、自己紹介、はしご車搭乗体験、ポスター配布等（20名）</p> <p>④ 10/17(日) 消防署にて、基本研修：起立訓練、座学（通報）、ロープワーク等（21名）</p> <p>⑤ 10/24(日) 消防署にて、基本研修：起立訓練、座学（避難）、煙中体験等（22名）</p> <p>⑥ 10/31(日) 江田島市消防本部にて視察研修：放水・煙体験、水防訓練、庁舎見学等（25名）</p> <p>⑦ 11/7(日) 消防署にて、基本研修：起立訓練、座学（消火）、消火器取扱い訓練等（18名）</p> <p>⑧ 11/13(土) 府中町揚倉山運動公園にて、BFC 競技大会：昨年度からの行事で、クラブ員の家族を交えての開催_競技内容_チーム対校リレー《柵越え・ロープ結索・消火ホース展張・水消火器噴射・平均台歩行・ハードル越・トンネル通過・毛布担架作成等》、消防車両乗車体験（25名）</p> <p>⑨ 11/14(日) 府中町イオンモールにて、イオン防災王国：来場者の、煙中ハウス・消火器取扱い・消防服試着、各体験の補助、消防資機材展示コーナーの手伝い（19名）</p> <p>⑩ 12/19(日) 消防署にて、規律訓練 及び クリスマス会、プレゼント交換、消防クイズ等（25名）</p> <p>⑪ 12/27(日) 消防署にて、ひろしま交流会：小学4年生対象、オンライン対応にてマイタイムライン作成・火災究明クイズ等（7名）</p> <p>延べ参加人数は小学生76名、中学生39名、高校生10名、保護者9名、指導員67名、事務局員12名、計213名の実績がありました。（2022年2月時点）</p> <p>なお、4月～6月、8月、9月、1月～間の例年の全体での予定行事は、コロナ禍対応により中止しています。</p>		



座学① プロジェクターを使っでの座学、新規クラブ員は興味津々



座学② 江田島消防本部での座学、全員よそ行きの顔で緊張



競技大会① 障害壁、チームの応援を背に柵越え、高いなあ！



競技大会② ロープ結束、保護者も本気で競技参加、難しい！

#### ◆実施に伴う効果

『BFC教本』の作成については、まずは『通報』『消火』『避難』等の資料を指導員中心に作成した後、これを使って主に入団歴の浅いクラブ員を中心に、座学と実習を行うことが出来ました。実施にあたっては中学生クラブ員に講師役を担わせることにより、今まで学んで身につけていることの復習含め、現在の立場としての責任感とモチベーションUPに繋がりました。（資料作成と座学で使用したPCとプリンターは、ご支援頂きました。）

昨年に引き続き実施した『交流運動会』にあたっては、全体企画当日準備・競技・後始末に至るまでの役割を中高生に与え、小学生クラブ員を指導し模範にもなりました。また、小学生クラブ員も自発的に手伝ってくる場面もありました。保護者からは普段家庭では見慣れない一面を見ることが出来たと喜ばれました。前回の反省点を踏まえ、計画通りに効率よく怪我無く実施することが出来ました。（協議に必要なロープ、運営費、備品類をご支援頂きました。）

#### ◆苦労した点

まずは資料作成から、既存の古い大人レベルの資料ではなく、新規クラブ員、特に小学低学年から理解できるレベルのものを作成するにあたり、専門用語の説明から、意味の言葉選び等に意識し、皆での確認含め、思った以上に手間が掛かりました。

中学生クラブ員に役割を担わせるにあたっては、実技等については普段皆の前で披露することは慣れているものの、プロジェクターを使って壇上でいざ講師役となると、不慣れ・恥ずかしさ相まって中々受入れてくれませんでした。しっかりと役割の説明をした後、理解してくれて実現出来ました。

また、活動予定日程の中止が重なり、いざ活動可能になってからのリカバリー日程調整も、クラブ員・指導員・事務局の負担にならぬようすることも、かなり手戻りが発生したりしました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

クラブ員のレベルアップとモチベーションアップを図る目的で、今回の活動は引き続き行っていきます。

成長と共に役割も変化していく人財育成の場としている弊クラブの存続には、新規クラブ員の入団も必須です。現クラブ員をみると、来期受験を控えている中高生生の参加に頼れない状況もあります。

昨今の活動・活躍の場が限られている中、いかに限られた人財で、効率よく安全に活動を継続していくかが課題と認識しています。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

活動の場は激減してしまいましたが、そんな中でも子供たちは確実に成長し頼もしくなってくれています。

ごく限られた活動の場を最大限活かし、子供たちのこれからの可能性を伸ばせるよう、可能な限り活動を通じて人財育成のサポートをしてまいります。

活動名	No. 2	団体名	(一社) ひろしま防災減災支援協会
地域に誇りを持つ青少年の養成を実現する防災士による地域防災活動		活動拠点	広島市安佐北区
		代表者	柳迫 長三
		支援金額	13万円

**団体紹介**

一般社団法人 ひろしま防災減災支援協会

母体である広島市防災士ネットワークの会員有志4名で2019年6月に一般社団法人を設立

- ・活動母体である広島市防災ネットワークの活動計画の作成、活動支援等
- ・事業受託を含む行政（広島市、広島県）との一層の連携強化。受託事業の拡大
- ・防災・減災関連のツール、プログラム等の企画・開発

**広島市防災士ネットワーク** 2015年1月に設立。広島市在住の防災士を中心に約130名で活動

- ・防災士の研修→防災知識・技術、コミュニティー力で地域の防災活動を支援
- ・青少年を対象にする防災活動の企画・運営

「鯉こいキャラバン」「小学生防災フェスティバル・小学生防災マップ」など

- ・学区単位で実施される防災活動の支援
- ・行政等との連携活動

**活動概要**

- ① 定例研修会（年11回：中区福祉センター） 会員の防災士を対象に防災研修 40名程度（回）
- ② 学校、地域での防災イベントへの参加と活動の支援
  - 小学生防災活動の支援「小学校6年生60名 防災教育（安佐北区 落合小学校）」
    - ・防災街歩き、防災マップ作製、防災工作、防災ゲーム、ひろしまマイ・タイムライン
  - 民間からの受託事業
    - ・9月2日～4日 CLIP広島 消してケロンパCLIP 広島5周年防災週間企画 約80名
    - ・11月7日 広島テレビ 「いま動こう！みんなで防災フェス」 約300名
    - ・11月21日 矢野東連合会 「遊ぼうーひろっぱ」 約150名
  - 「広島市防災まちづくり事業」…防災まち歩き、防災マップ作成、DIG訓練など。約10回
- ③ 「広島市災害ボランティア連絡調整会議」、「太田川水防災タイムライン」検討会への参加
- ④ 防災・減災ツール、プログラム等の拡充
  - ・「キッズ防災士」…商標登録を申請。広島県のプログラムへの参画を調整中

**【公式ホームページ】**

当会の概要、会員間の情報共有、防災活動情報、防災に関する情報提供、研修会情報などを目的にホームページを運営。有効に活用しています。



学校の周辺をチームで街歩き



学校周辺の防災マップづくり



参加者と一緒に防災工作



防災 まちがいさがしゲーム

#### ◆実施に伴う効果

地域住民、中でも、青少年層、特に生徒の防災意識醸成と防災活動への参加が重要課題の一つである。今年度は、小学6年生（安佐北区落合南小学校）60名を対象に、総合学習の位置づけで防災教育を実践した。小学生自らが、事前にハザードマップを確認後、地域を歩き、地形などをから地域のリスクを確認し、撮影した写真も利用して「地域の防災マップ」を作成。地域の一人住まいの高齢者宅にも案内。参加した小学生は楽しく防災活動に参加し、結果として防災意識・地域の郷土愛の醸成につながったと考えている。

参加した小学生からは、「命スイッチが大事」、「やってみれば面白い」との声もあり、親御さんへの啓蒙にもつながっており、地域のコミュニティー意識の向上に貢献できたものと考えている。

#### ◆苦労した点

コロナ禍での活動であったが、オンラインミーティングのノウハウ習得により、主催する研修は、ほぼ予定通りに実施ができた。

防災活動を具体的に実践するマンパワー確保に苦労している。防災士の性質上、地域自治会・町内会の役員層が多く、活動参加者の高齢化が進む。所属メンバーの努力により、徐々にではあるが、若年層、女性の参加が増えつつある。

防災分野でも新しい技術を活用したツールができてきているが、対応できる会員は少なく、利活用に苦労している。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

防災・減災活動の質的進化、及び活動範囲の拡大にはイノベーションが必要な時期にある。

- ・ 従前の「脅しの防災」、「知識の防災」から「助ける側への姿勢の防災」への質的向上を図る。
- ・ IT 等も活用する防災・減災ルール、プログラムの拡充を図る。
- ・ 活動地域は、広島市東部の府中町、坂町、東広島市等へ拡大と、広島県の他地域との連携も図る。
- ・ 「共助」部分を厚くする活動に貢献したい。具体的には、地域に所在する企業との連携を推進したい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

財団の活動に参画することで、計画作成～中間の活動分析～年度末の活動成果といった、法人としての基本的なマネジメントを実践している経験が大きい。

また、財団で企画いただいた参加団体の交流会では、各団体が工夫されている実状を拝聴することができ、大変参考になっています。

3年間、大変お世話になりました。引き続き、宜しくお願いいたします。

活動名	No. 3	団体名	ふかわ子ども食堂
ふかわ子ども食堂		活動拠点	広島市安佐北区
		代表者	渡邊 恭子
		支援金額	15万円

団体紹介
<p>活動は、2019.7～</p> <p>構成メンバーは、安佐北区深川、亀崎、可部、海田町、矢野、呉、観音などに在住の10代から80代の男性4名女性14名からなります。学生さん6名も含まれます。(2月現在)</p> <p>結成の目的は、多世代交流の場の提供、親子の居場所づくり&amp;食事の提供</p> <p>現在の活動方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食事の提供や子どもさん達への遊びの提供により居場所の提供→人と人との絆を作る</li> <li>② 多世代交流→親子世代だけでなく多世代で集まれることのできる場に</li> <li>③ フードロスの削減→フードロス食品をあいあいねっとさんや広島子ども食堂支援センターさんより紹介いただきそれを参加者の方に無料提供し、フードロス食品の削減に協力</li> </ol>

活動概要
<p>実施日</p> <p>日曜開催子ども食堂 第4日曜(月に1回)</p> <p>場所は、プラザ Hot One 安佐北区深川 3-29-13</p> <p>内容は、食事の提供(現在は新型コロナウイルスの状況によりお弁当の提供の時もあり)、提供食品の無料配布、子どもさん達への遊びの提供(バドミントン、卓球、製作コーナー→11月はクリスマスリースを作りました。後シャボン玉をご用意させていただいております。)</p> <p>参加家族は、約15家族、お弁当は約60～70個です。</p> <p>平日開催子ども食堂 第2,4木曜放課後、第2土曜 10:30～16:00</p> <p>場所は、上庄会館 安佐北区深川 3-24-10</p> <p>内容は、こちらの子ども食堂は子どもさんだけの参加。子どもさんの自主性を大切に、ということを目的として、基本的に子どもさんの希望を優先した活動を行っています。製作活動や、クッキング、体を使った遊びをしています。今までの具体的な活動として、昼食づくり(焼きそば、カレー、ナポリタン)、おやつ作り(クレープ、ホットケーキ、プリンなど)、クッキングの材料を子どもさん達と一緒にスーパーに出かけて買いました。子どもさん達の意見を聞きながら、「自分で考えて自分で行動する。」そうすることで自分に対する自信や自己肯定感の促進につながるよう見守っています。</p> <p>現在の活動メンバーは、4名です。</p>



メニューは、鶏のから揚げ、お芋の天ぷら、大根サラダなど。



バドミントンで遊べるようにご用意しています。



シャボン玉の用意もしています。モールで形を作ったものにシャボン玉液をつけて遊びます。



平日子ども食堂の様子。12月3回目の開催はクリスマス&誕生日会ということで皆さんとケーキを食べました。飾りつけは先に下校してきたチーム2年生がしてくれました。

#### ◆実施に伴う効果

家族連れで参加される方がほとんどで、無料で配布するフードロス食品を喜んで下さったり、月に一回お昼ご飯のことを考えずにホッとできるこの日を楽しみにしています、ここでなら安心して子どもを遊ばせることができます、という声をいただいております。スタッフさん達と作っている食事に関しましては、参加者の方からとても美味しいし、野菜もたくさん使ってあってありがたいと好評をいただいております。

実際この活動をするようになりフードロスの食品の数が多いことに驚きます。子ども食堂の活動に賛同下さり、食品を提供下さる企業さんも多く、食品を無駄にすることなく参加者の方に配布することができます。

平日子ども食堂に関しましては、参加者の子どもさんが、学校より子ども食堂のほうが自分の思いで過ごせるから好きと語ってくださっていて、自分の思いを表現できる場所として平日子ども食堂を感じてくださっております。自分の気持ちを正直に言ったり、無理に周りに合わせることなく自然に各子どもさん達が過ごしている様子をうかがうことができます。

#### ◆苦労した点

今年度も、新型コロナウイルスによる開催の有無の判断に悩まされました。お弁当配布にしたり、提供商品の配布のみにしたり、子ども食堂自体を中止にしたり判断するのに苦労しました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

現在、日曜の子ども食堂と平日の子ども食堂の開催場所は異なります。同じ場所での開催を目指して、活動拠点を捜しております。

活動拠点を得ましたら、平日の子ども食堂の開催頻度を増やしたり、現在は、放課後から 18:00 までの開催としておりますが、夕食の提供も視野に入れていきます。近年は、共働き世帯も増加しておりますので、日曜だけでなく平日の夕食の提供を行うことで、親御さんの負担も減ると考えます。

現在子育て世代のご家族の参加が主ですが、年代を問わず参加いただけることを目指したいです。安佐北区のボランティア活動に登録致しました。私達の活動を安佐北区をはじめ広く知っていただき、来年度はそういった方の参加も目指します。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

活動資金が、安価に設定していますお弁当の売り上げのみとなりますので、資金繰りが大変難しい課題となっております。どの子ども食堂さんもだと思えます。今回マツダ財団様に補助金支援を賜りまして、子ども食堂に必要な備品の購入、食材購入の不足分を補えましたので、大変ありがたく思います。開催場所が二か所に増えたことで賃料も増えましたが、支援金により賄えましたので、それも大変ありがたいです。

活動を通して、子育て世代の方と接することが増え、嬉しい感想をいただくにつれ、来年度の活動に関しても意欲が高まります。私に出来ることをスタッフさん達の力を借りて出来るように無理なく行っていきたいです。

活動名	No. 4	団体名	宿題やつけ隊
子どもの放課後学習支援		活動拠点	広島市佐伯区
		代表者	松岡 和貴
		支援金額	27万円
団体紹介			
<p>結成時期：2017年6月</p> <p>構成メンバー：子ども 82人、ボランティア 21人</p> <p>結成の目的：教育の機会の平等を図るために子どもの放課後学習支援事業を行う。本会に登録している子どもの多くは学習塾に通っていない。中には、経済的理由により、通塾が困難な子どもも存在している。そのような子どもたちを支援するために実施している。</p> <p>また、地域コミュニティを創出する側面もある。勉強を通して、子どもと地域住民との交流の場として機能する。参加している地域住民の多くは仕事を退職されたご年配の方であり、新しい繋がりを求めたり、子どもを孫のように接しながら活動を楽しまれている。また子どもの観点から、両親や学校の先生以外に身近な大人があまりいないため、知り合いの地域の大人が増えて、安心して過ごしやすい。</p>			
活動概要			
実施日時と場所、対象学区			
・月曜日	15時～18時	皆賀公民館	五日市東学区
・木曜日	14時～18時	五日市公民館	五日市学区
・金曜日	15時～18時	五日市中央公民館	五日市中央学区
・土曜日	10時～11時	佐伯区福祉センター	五日市南学区
内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習塾に通塾していない小学生を中心に、無料学習支援を行う。</li> <li>・講師は全てボランティアで、地域住民から構成している。</li> <li>・一人ひとりの学力を向上させる為、宿題だけでなく、自主勉強（算数・漢字）にも取り組ませる。</li> </ul>			
参加人数			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども（小学生）82名</li> <li>・講師（ボランティア）21名</li> </ul>			



学習会の様子



学習会の様子



学習会の様子



自宅学習の様子

#### ◆実施に伴う効果

計算力に不安のある子どもに対して、保護者と連携して百マス計算の特訓をした。1か月後には多くの子どもが計算に自信を持ち、苦手から得意に変化した子どもも見られた。

また、子どもと保護者向けに2021年度のアンケート調査を実施 ※集計数76

- ・本会の満足度 82%
- ・子どもが勉強を好きになった 76%
- ・テストの点数が上がった 63%
- ・自宅で学習する時間が増えた 59%
- ・学校の授業が分かるようになった 47%

#### ◆苦労した点

度重なる蔓延防止等重点措置により、教室の利用が制限され学習会の実施を中止せざるを得ない状況があった。その間、子どもが学習する習慣が抜けてしまい、成績の低下や退会に繋がることもあった。対策として2022年1月より自宅学習支援を新たに実施して、教室が利用出来ない状況でも子どもの学習支援を実施している。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・子どもの自宅学習支援には家庭の影響力が大きいため、保護者と協力する体制を築いていく必要がある。
- ・現在4学区で教室を開催しているが、5学区目、6学区目と対象学区を増やして展開していく。
- ・教育格差の解決、かつ活動を継続させていくために、個人の寄付やスポンサーを得られるよう、広くPRしていく。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

今年度はコロナ禍の影響で思うように開催出来ず、戸惑いもあったが、保護者の要望から自宅学習支援が生まれ現在のところ順調に進んでいる。只、ボランティアの方は子どもとの関わりが減少しているため、その対策の立案と、一日でも早いコロナの終息を願い、次年度も引き続き取り組んで参りたい。

活動名	No. 5	団体名	ひろしま CanDo (かんど) プロジェクト
ペーパークラフトロケット教室		活動拠点	広島市佐伯区
		代表者	弓立 ゆき
		支援金額	34万円

**団体紹介**

2019年、4月結成。  
 メンバー：弓立ゆき、金川美樹、古田敦美

目的：自分で作ったロケットが空高く飛ぶ姿を目の当たりにすることで、やればできる!を体感し、「やったことのないこと」に挑戦すること、それを乗り越えた時の感動、喜び、達成感を体験する。これからの社会に必要とされる「自分の力で課題を発見し、解決できる力」「やったことない事をやりたがる力」「自己肯定感」「人は足りないから助け合える」「みんな同じじゃなくていい」「ひとりじゃできないことも仲間と力を合わせれば出来る」そんな気持ちや「誰かを応援する力」を、このロケット教室を通じて子どもたちに届ける。

**活動概要**

日付	場所	参加者	内容
6/20	太田川放水路河川敷	9名	自宅へキットを郵送し、各自が作成したロケットを飛ばす
7/3	久保アグリファーム	7名	通常のロケット教室
11/14	可部運動公園	12名	ボーイスカウトから依頼を受けての教室
12/19	久保アグリファーム	17名	植松氏と児童養護施設の子どもたちを招待しての教室
1/16	可部運動公園	13名	12/18の植松氏の講演を聞いた方を対象とした教室
3/29	阿品公園(予定)	14名	学童から依頼を受けての教室



6/20の教室に参加して下さった方から頂いたイラスト



1/16 蔓延防止でなかなか参加が叶わなかった中学生。やっと参加できたと喜んでくれた。今年は一人で北海道の植松電機にも行きたいと話してくれた。



12/19 児童養護施設の子どもたちを招待しての教室。前日の植松氏の講演も聞いてもらい、植松氏と一緒に制作・打ち上げを楽しんだ。地元の方々のご厚意でご馳走も作ってくださった。携わってくれたみんなが笑顔になれた思い出深い一日。来年度も企画したい。



#### ◆実施に伴う効果

今年は昨年に引き続きコロナの影響が大きく、子どもたちも楽しみにしていた行事は「出来ないことが当たり前」になっていた。私たちの教室も蔓延防止で中止せざるを得ないこともあった。キットを自宅に送り、自宅で作ったロケットを打ち上げ会場に持ち寄り、飛ばす教室も企画した。対策を講じた教室を実施し、子どもたちが外に出て楽しむ機会を提供できたこと、こんな状況でも「出来ること」はあると体験してもらえたことが一番の効果だったように思う。補助金を頂いたことでプロジェクターを購入。設備のない教室でも動画を流すことが可能になった。さらに教室で流す動画も子どもを対象にしたものに変えた。ロケット教室の目的が「みんなはすごいことが出来る人なんだと知ってほしい」という思いを、ロケット教室を始めた植松努氏の言葉から聞くことで、ただロケットを作って飛ばす「工作教室」とは違うことを今までよりも伝えられるようになった。

回を重ねていくにつれ、私たちにとっての適正な対象年齢が分かってきた。

今年度一番の成果は、他団体と協力して児童養護施設の子どもたちに無償で昼食付のロケット教室をプレゼントすることが出来たこと。前日に開催された植松氏の講演会も聞いてもらうことが出来、当日は植松氏や植松電機の伊藤氏を囲んでわくわくしながらロケットを製作した。打ち上げの際は沢山の歓声を聞くことも出来た。地元の方々も子どもたちのためにと、沢山のご馳走を用意してくださり、関わってくれた全員が笑顔になれるイベントとなった。「普段大人と接する機会の少ない子どもたちにとって貴重な体験となりました」と職員の方から後日お手紙を頂いた。今後もそういった自分から教室に参加できる機会のない子供たちに向けての催しを目指していきたいと改めて感じた。

#### ◆苦労した点

コロナで会場が直前に使えなくなるなどのアクシデントがあった。

スイッチが経年劣化によりうまく作動しない、小さい子にはボタンが押しづらいなどが原因で打ち上げに予定より長時間を要したことがあった。→ スwitchの大きさや形状の見直し、作り直しをした。

HPでの集客について、具体的な課題が見えてきた。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

不登校や経済的事情など、様々な問題を抱えた子どもたちにロケット教室を届けたいと考えているので、今までの教室開催と並行して、学校や施設などでの実施を目指し、一緒に活動する仲間を増やしていく。

最近では通信制高校から問い合わせもあった。コロナや、経費の面でまだまだ問題はあがあるが、実現したい。

打ち上げのできる広い場所と室内の制作場所が揃った施設の開拓も課題。

今年度は可部運動公園を新たに活動場所に加えたが、保護者の車送迎が必須となる。

利用できる施設を増やすことと、もう少し利便性の高い場所の開拓に向けて動く。

HP や FB の充実と更新頻度を上げること。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

去年に引き続きコロナの影響はあったが、昨年度頂いたご縁のおかげで今年度の打ち上げ予定だった 60 機を達成できそうである。ロケット教室当日早朝からの準備など、大変なことはその時々であるが、自分の作ったロケットが無事に空へ打ちあがった瞬間の子どもたちの顔を見ると、毎回「やって良かった」と思う。

コロナ禍ではあるが、ロケット教室も知名度が上がってきたこと、私たちも植松電機の公式 HP で紹介してもらったことなどにより、本当に届けたかった子どもたちへ少しずつ近付いてきたことを実感する機会が増えた。

来年度は一年間の計画を立て、チラシの配布を増やすなどして、窓口を広げていきたい。

活動名	No. 6	団体名	江波地域共生社会プロジェクト えん
多世代交流広場 えん		活動拠点	広島市中区
		代表者	佐藤 一直
		支援金額	27万円

団体紹介
<p>2019年4月～「新古今EBA衆」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多世代、他機関で地域課題に取り組む事を目的に企画運営委員会が立ち上がる。江波地区の小学生への学習支援に取り組む事が決定。</li> <li>2019年（平成31年）夏休み、9月から3月まで毎週木曜日、2020年、2021年夏休みに「新古今EBA衆」を開催。</li> </ul> <p>2020年11月～「多世代交流広場えん」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、子どもや高齢者が気軽に寄る事の出来る共生型の居場所を目指すことになった。</li> <li>江波商店街振興組合の協力を得て、事務所を改装し、「多世代交流広場えん」を立ち上げ、地域住民と江波地域包括支援センターとが企画、運営している。</li> <li>イベントを開催し、多くの住民に取り組みを知ってもらい、活動を地域に根付かせ、協力者を増やす為にも、沢山の方に参加してもらうことを目指している。</li> <li>引きこもりの青少年や、障害のある親子なども立ち寄り、暖かい雰囲気の中で会話や、人や社会とのつながりを実感できる居場所を目指している。</li> <li>地域の障害者作業所や住民が手作り品を提供し、販売を行い、障害者や高齢者、地域住民の活躍の場にもなっている。</li> <li>地域の企業からの協力を得て、賞味期限間近のパンを引き取って活用し「食品ロス」への取り組みをおこなっている。</li> </ul>

活動概要
<p>①「新古今EBA衆（小学生の学習支援）」（広島市中区江波二本松2丁目6-27）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自宅では環境が整いにくい子供たちに学習の機会を提供することを目的に2019年から開催。コロナ感染症拡大防止のため、感染予防対策を徹底して人数を限定して実施した。</li> <li>8月3日、4日、5日 小学生参加者各回10名 地域ボランティア各回5名程度</li> <li>小学生は夏休みの宿題とパン作り体験、ボランティアは学習の見守りとスープ作りを行い、一緒に食べ交流を行った。</li> </ul> <p>②「みんなでラジオ体操」～夏休み特別企画～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江波学区子ども会と共催で夏休みに江波小学校のグラウンドで実施。高齢者や保護者も参加した。</li> <li>前半7月26日～8月5日 後半8月17日～26日（土日を除く） 朝7時から</li> <li>終了時には小学生へ景品を準備した。また、出席カードへの押印を高齢者が行った。</li> </ul> <p>③コロナ禍でもつながりを、出来る事から～IN「育ちの森保育園」おひさま広場～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域共生社会への取り組みに賛同してくれた保育園に協力を依頼し、2月5日庭付き古民家で手形アートで絵を小学生が描き、焼き芋作り体験を行った。コロナ感染症拡大防止のため、人数制限と感染予防を徹底し、13名の小学生と未就園児が参加した。高齢者と対面での接触は出来なかったため、描いた絵に子供たちがメッセージを書き、イベント後に地域の3か所に飾りメッセージを読んだ高齢者が返事を書くという非対面での交流を行った。</li> </ul>



←地域共生社会へ向けた地域づくりのための研修会を実施しました。

「多世代交流広場えん」では手芸作りも行っています。→



←夏休み、小学生が宿題をするのを、緩やかに見守っています。

↓→高齢者がスープ作り、小学生はパン、ピザ作りをしました。



↑夏休み、ラジオ体操を実施しました。



←コロナ禍でも繋がれるために絵を描いてメッセージを書きました。

→↓書いた絵を飾り、焼き芋作り体験をしました。



#### ◆実施に伴う効果

コロナ感染症の影響で、子育て世代、小学生、障害者、高齢者等が居場所や多世代の交流機会を奪われていることを実感した。小学校の行事や地域の祭りが中止、障害者、高齢者の居場所が休止になり、地域でのつながりの機会が減り、孤立や寂しさを感じている住民が多い。コロナの感染状況を見ながらイベントを開催することで、「こういった機会を待っていた、久しぶりに楽しい行事に参加できて嬉しい」といった声が多く聞かれた。また、「多世代交流広場えん」では人数制限を行い、感染対策を講じて出来るだけ開けていた。居場所を求める親子や引きこもりがちな青少年が参加出来たことで、身近な地域でのつながりを切らさないことが出来た。

#### ◆苦労した点

コロナ感染症の影響で当初の計画通りにはイベントが開催できなかった。予定ではもっと広報を行い、多くの地域住民に参加をしてもらい、この取り組みについて知ってもらい、協力者を増やすことを目指していた。やむを得ず人数制限を行っての開催となったが、どう工夫したら開催できるかを考えてつながり作りを行った。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今後も、イベントを開催しながら、「多世代交流広場えん」の運営を行っていく。赤ちゃんから高齢者までどんな方でも立ち寄れる、繋がれる居場所としての機能を高めていく。孤立し、排除されず、「えん」でつながりあえた人同士が心配し合える、嬉しい事は共有し合える関係作りを目指している。また、地域の公的な相談機関とも連携し、問題を抱えた住民への早期介入などの連携を行い問題解決に向けたアプローチも同時に目指していく。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

コロナ感染症の影響で、つながり作りが難しい状況のなかで、どうやったら、いつだったら出来るかを考えながら実施しました。今後も、つながりを切らさない、地域で孤立しがちな子育て世代、障害者、高齢者等に重点を置き、多世代での交流を通して、お互いを理解し合い、住みやすい江波の地域づくりを目指していきたいと思っています。

マツダ財団様に資金面での支援を頂き、多団体の活動を知る機会を得て、大変刺激を受けながら、活動を行うことができました。ありがとうございました。

活動名	No. 7	団体名	ピアサポート子育て相談センター
<b>#3つのCプロジェクト</b>		活動拠点	広島市中区
		代表者	池永 加寿子
		支援金額	32万円

### 団体紹介

**結成時期** 2018年7月

**構成メンバー** 教育関係者1名、心理学部の大学生6名

#### 結成の目的

家族の温かさを知らず、15年に渡る養父母からの虐待により心と生き方に大きく影響を受けた代表者が、保護者には、“親になったならしっかり育てて欲しい”、子どもには、“辛いことがあってもあきらめない。自分の生き方は自分で創っていきける”ということ伝えるため設立。

#### 活動方針

Can! (できる) Creative! (自分の生き方は自分で創る) Communication! (コミュニケーション)をコンセプトに、子どもと保護者同時にサポートをおこなう。求め続ける支援のあり方ではなく、“自分でできるように”を目的とした支援を意識している。

### 活動概要

#### 園児～小1対象：おはなしたいむ

- 【実施日】**
- ①2021.6.27 (日) 子ども4名+保護者3名
  - ②2021.7.17 (土) 子ども4名+保護者3名
  - ③2021.10.30 (土) 子ども3名+保護者2名
  - ④2021.11.20 (土) 子ども4名+保護者3名
  - ⑤2022.1.15 (土) 子ども4名 ※オンライン
  - ⑥2022.3.5 (土) 子ども3名 ※オンライン

**【場所】** 広島市佐伯区地域福祉センター

**【内容】** 大勢が苦手な入学前後の子どもを対象とし、自分の気持ちを伝えられるよう自然な形で練習する。

- 子ども (心理学部の大学生主導)
  - ①音楽やゲームで大学生と自然な会話を始める
  - ②おやつでのデコレーション後、一緒に食べる
  - ③自分から声をかけて、気持ちを伝える話す練習

- 保護者 (心理サポーター主導)
  - 子どもとは別室で、子育てに役立つ心理学ワークと座談会

#### 低学年対象：工房

- 【実施日】**
- ①2021.7.3 (土) 子ども5名+保護者5名
  - ②2021.10.16 (土) 子ども5名+保護者5名
  - ③2021.11.20 (土) 子ども3名+保護者3名
  - ④2021.12.18 (土) 子ども4名+保護者4名
  - ⑤2022.2.19 (土) 子ども3名 ※オンライン
  - ⑥2022.3.5 (土) 子ども2名 ※オンライン

**【場所】** 広島市佐伯区地域福祉センター

**【内容】** 大勢が苦手な低学年の子どもを対象とし、自分の気持ちを伝えられるよう自然な形で練習する。

- 子ども (心理学部の大学生主導)
  - ①工作で大学生と自然な会話を始める
  - ②おやつでのデコレーション後、一緒に食べる
  - ③自分から声をかけて、相手を思いながら断る練習

- 保護者 (心理サポーター主導)
  - 子どもとは別室で、子育てに役立つ心理学ワークと座談会



開始前の打合せ。設立時から参加している心理学部生もいるので、大学生から若いアイデアがよく出てきます。



おやつでのデコレーションは、子どもたちの目が輝く作業。力が必要な絞り出しの作業は、お姉さんと一緒に。



途中で何が起るかわからないので、材料は多めに。失敗しても時間内にやり直せるように整えて。



工作教室ではなく会話の引き出しを兼ねているので、どんな色や材料を使いたいかを自分から伝えて出来た作品です。



自分のおやつが上手に出来ると、「お姉ちゃんのも作ってあげる!」と、どんどん積極的になっていきます。(^^)v



心理学部生ならではのアイデアで、授業でおこなう“要求水準の心理学実験”を組み込んだボーリングをおこないました。



出来上がり～♪  
こちらは、  
大学生の試作品 ⇒



小学生の「工房」は、はしゃいだり、動き回ったりではなく、静かにニコニコという雰囲気です。



バルーンを膨らますのは大変だけど、お姉さんに手伝ってもらいながら。(^^)  
創ったものもらうのではなく、やっぱりこころは、3つのCプロジェクトらしく、自分で創ることにこだわります。



始める前に「割れるとこんな音がするよ～」と、一度バルーンを割ってからスタート。割れたときの音を事前に知って始めるので園児でも抵抗なく触っています。これは、ハートを作成中。むぎゅ～。



緊張や不安を和らげる深呼吸の練習。みんなの前で発表、ミスしたときはドキドキ！そんな時も心を整えて。工作やデザート、楽しい時間の合間に短時間でおこなうのがコツ。(^^)



自分から声をかけるのは勇気がいるもの。声をかける練習では大学生がモジモジ…あえて「失敗」を見せます。(＞\_＜) やっぱり説明を聞くだけより、見たほうがわかりやすい！

#### ◆実施に伴う効果

##### 子ども

大勢だと戸惑ってしまう子どもたちも心理学を学んだ大学生が自然体で話しかけるので、1回目ですぐに打ち解け、年齢の近いお兄さん、お姉さんの効果は想像以上でした。

この楽しいと感じる中での学びを大切にしており、緊張していた子どもたちも自分から声をかけていけるようになりました。

##### 保護者

子どもが毎回大学生との関わりを楽しみにしている様子は、保護者の安心につながったようです。

また、別室での心理学ワーク（座談会形式）では、保護者同士の共感や学びとなり、別日におこなう個別相談では、一人で抱えている不安を吐き出すことができたと思います。

##### 大学生

心理学を学びながらも実践してみると思っていたようにいかないことも含め、授業では得られない学びにつながったようです。

また、単発ではなく、1年間継続の事業だったことで、うまく指導できなかった部分を「次回は、…してみたい」と自ら工夫する姿がみられました。

#### ◆苦労した点

継続によるコミュニケーション効果を考え「おはなしたいむ」、「工房」は、隔月1回（1年間で12回）の開催予定でしたが、予想以上のコロナ感染拡大により、何度も日程変更することとなりました。

苦しい状況の中でも本事業の中止は避けたいという思いからオンラインを組み込んで継続しましたが、1年を振り返ると「苦しかった」という印象の年でした。

特に、時期がずれることによる企画内容や会場予約の取り直し、試作のやり直し、打合せの増加、予算修正など、運営力を鍛えられたように思います。しかし、継続することはこのような難しさの連続だという学びにもなりました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

人との関わり方を自然な形で練習していく企画なので、定期的に参加することで効果を上げ、新年度を迎えて欲しいと思っていたのですが、ここまで日程変更が続くとは想像しておらず…

学校や企業もオンライン、仮想空間での展開が増えていく中、今後の市民活動の在り方を考えています。変えたほうが良い部分、変えないでおきたい部分の整理をしていきたいと思っています。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

設立して4年目に入りましたが、心理学部で構成する大学生チームは、学んでいる心理学実験などをゲームなどの企画に活かし、子どもたちとの接し方を毎回工夫していました。

子どもたちと信頼関係を構築するのは年齢の近いお兄さんやお姉さんのほうが早く、学業やバイトと並行しながらも1年の活動に参加し続けてくれた大学生に支えられて実施できたと思います。

活動名	No. 8	団体名	(一社) 広島国際青少年協会
出張！ぼくらの町 2021 冬		活動拠点	広島市中区
		代表者	井内 康輝
		支援金額	32万円
団体紹介	<p>広島国際青少年協会は、個人や社会の「well-being (=よく生きる)」を実現するために、自分を耕し社会を耕す「カルティベーター (=自己と社会の well-being を実現するリーダー)」を育てることを目的に、1958年9月に結成された。構成メンバーの多くを大学生が占めるが、小中学生、高校生、社会人に至るまで幅広い年代に活動の場を提供している。団体としては以下の2つの活動方針を掲げている。①一人ひとりが個人の well-being を実現するために、夢や理想を明確にする力、新たな機会に挑戦する力など、自分の夢や理想の実現に向かって、自分という木を育てていく力 = 自分を耕す(リードカ)を身につけること。②それだけでなく、社会の well-being を実現するために、困難な問題に挑戦し解決策を生み出す力、異なる考え方を持った人々と協働する力、責任ある行動をとり、積極的に社会参画する力など、理想の社会の実現に向かって、社会という森を育てていく力 = 社会を耕す(リードカ)を身につけること。</p> <p>このような方針のもと、自分の夢や理想の社会の実現に向けて、大志を持ち、仲間と共に切磋琢磨し、楽しみながら尽力することができる「カルティベーター (開拓者)」を育てるべく、日々活動している。</p>		
活動概要	<p>実施日：2021年12月25日(土)～27日(月)</p> <p>場所：広島県立広島産業会館 (本館第1展示場・第2展示場・会議室)</p> <p>参加人数：子ども参加者(小・中学生)143名 スタッフ(高校生・大学生・社会人)68名</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が、「ぼくらの町」という疑似社会を自らの手で形成し、その社会に参加する体験を通して、社会に対する責任感や効力感など、社会の well-being を実現する力を育むことを目指す。</li> <li>「ぼくらの町」には、役場、銀行、新聞社、警備会社、レストランといった様々な企業があり、参加者はいずれかの職業に就いて働き、給料を稼ぐ。(職業体験)</li> <li>参加者は、働いて得た給料を使って、他の参加者が働くレストランで食事をしたり、他の参加者のお店で買い物をしたりするなど消費活動をおこなう。その利益は参加者の翌日の給料になる。(経済体験)</li> <li>約200名の小さな町だからこそ、一人ひとりの行動が町全体に影響を与える。良い町にするのも悪い町にするのも自分たちの責任だと実感することができる。(社会体験)</li> </ul>		



企業目標を設定する様子



銀行で働く様子



レストランで働く様子



企業でのルールを確認する様子

#### ◆実施に伴う効果

疑似社会プログラム「ぼくらの町」を通して、子どもたちが社会参加の経験を積み、よりよい社会の形成者になるきっかけを得た。特に、次の5点の資質・能力が養われたと感じている。

- ①社会の仕組みの実感：社会の仕組みを、実際に体験を伴って理解することで、社会を動かしている一員であるという実感を持つこと。
- ②社会への効力感：自分は社会に影響を与えることができるという感覚をもつこと。
- ③社会的責任感：コミュニティの一員であることへの責任感を持ち、そこでの問題や不満の改善に向けて、自分事として行動すること。
- ④主体性：自分の人生は自分のものであるという責任を持ち、自分の自由な意思によって行動を選択すること。
- ⑤協働する力：自分や他者が問題を抱えた時に、互いに助け合いながら解決しようと行動すること。

#### ◆苦労した点

新型コロナウイルスの流行状況により、予定していた夏休みでの実施は断念し、冬休みでの実施となった。さらに、宿泊なしでの実施となるなど変更点が多かった。スタッフは夏休みの実施に向けて一生懸命に準備を進めていたため、延期となるか中止となるか分からない状況下で「ぼくらの町」に対してモチベーションを保ち続けるのが大変だったと感じている。また対面での活動を制限していたため、スタッフがイベントで子どもと対面で関わった経験が無い、または久しぶりであり練度不足を感じる部分があった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今回の「出張！ぼくらの町 2021 冬」では感染症対策のためにマスクの着用や手洗いうがい・手指消毒などを呼びかけたが、会場が狭く密になって活動する場面があった。今後は余裕のある会場選びや内装づくりを心がけつつ、より町らしさが感じられる景観を作り上げたい。また、期間や規模に関してもさらに発展の余地があると感じており、期間を現行の3日間・4日間よりも長くすることで起業や倒産、転職の仕組みを入れたり、新しい企業を考案し規模を大きくすることで更に本物の社会らしさを出したりしたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

なかなか情勢が読めなかったが、実施するために様々な手を尽くしなんとか実施にこぎつけることができ安堵している。コロナ禍で新しい形での実施となり、様々なあたらしい試みを実施していかなかで、様々な改善点も見えた。昨年度は対面活動がほぼ行えず厳しい情勢だった中、ご支援いただいたことは活動を継続・発展させていく一助となったと感じている。

活動名	No. 9	団体名	(一社) まち物語制作委員会
ヒロシマ復興 絵おと芝居の小学校・公民館巡回公演		活動拠点	広島市西区
		代表者	福本 英伸
		支援金額	32万円
団体紹介	<p>結成時期：2011年に結成、2018年に一般社団法人化。構成メンバー3人（賛助メンバー：10名）</p> <p>結成の目的・方針：地域にある民話や昔話、偉人伝などの物語を活用し地域の活性化や震災復興に貢献することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 震災復興事業及び地域おこし事業</li> <li>2 地域活性化に関するアニメーション、絵本、紙芝居等の制作および販売事業</li> <li>3 中山間地活性化コンサルタント事業</li> <li>4 地域の物語を活用した地域活性化事業</li> <li>5 前各号に付帯又は関連する一切の事業</li> </ol>		
活動概要	<p>▼第1回ヒロシマ絵おと芝居（佐伯区紙芝居まつり共催事業）</p> <p>日時：11月3日（祝）、会場：佐伯区民文化センター大ホール</p> <p>参加者：300名（関係者を含む）</p> <p>出演者：読み手：森井順、福田恵、武山美紀、山本優子、西村宏子、小出省吾  音楽：森恭子（エレクトーン）、山下京子（歌）、石橋裕子（ピアノ）  歌：ヤマハ森音楽教室の子どもたち4名</p> <p>内容：ヒロシマ緑の輪物語、広島サッカー復興物語</p> <p>▼第2回ヒロシマ絵おと芝居（ヤマハ森音楽教室との共催事業）</p> <p>日時：11月3日（祝）、会場：佐伯区民文化センタースタジオ</p> <p>参加者：150名（関係者を含む）</p> <p>出演者：読み手：ヤマハ森音楽教室の生徒及び保護者15名  音楽：森恭子（エレクトーン）、山下京子（歌）、石橋裕子（ピアノ）</p> <p>内容：ヒロシマ緑の輪物語、広島サッカー復興物語</p>		



11月3日佐伯区民文化センター大ホールでの公演



11月3日佐伯区民文化センター大ホールでの公演



12月5日佐伯区民文化センタースタジオでの公演



12月5日佐伯区民文化センタースタジオでの公演

#### ◆実施に伴う効果

小学校での実施はコロナの影響でかなわなかったが、佐伯区全公民館の17館が参加する佐伯紙芝居まつりにおいて共催という形で実施できたのは大きな意義があったと考えている。子供向けの生涯学習や平和学習に取り組む公民館に紙芝居の進化系である「絵おと芝居」という手法を認知してもらったことは意義があった。実際、その公演を見た藤の木公民館が2022年3月20日に主催事業として実施をすることになった。

またヤマハ音楽教室との開催は、絵おと芝居に参加した子供たち多大なる影響を与えた。不登校で学校に通えなかった児童が、絵おと芝居の練習には嬉々として参加する様子を見て、子供が新たな可能性を見出したことに両親も大変喜ばれていた。こうしたことから森音楽教室では来年度以降も児童の発表会に絵おと芝居を取り組む方針である。

#### ◆苦労した点

- ・小学校との共催及実施を模索し、学校や教育委員会を回ったが、新型コロナウイルスの影響で協力を得られなかった。そんな中、今年度の開催を断念しかけたが、佐伯区の全公民館が参加する佐伯区紙芝居まつりにおいて特別出演という形で共催することができた。また、佐伯区の藤の木団地を拠点とし、広島市全域から多くの児童に対しピアノ及びエレクトーンを教えるヤマハ森音楽教室との共同開催にこぎつけた。

- ・当初、プロ及びセミプロによる公演を行う予定であったが、二回目の公演では子供たちが出演者として参加してくれた。このことにより個別練習に加え、6回もの事前練習を実施したが、その練習に劇団の方（劇団テアトル広島）に指導していただき、多大な負担をかけた。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

公民館関係者やヤマハ音楽教室において「絵おと芝居」を認知してもらったことを活かし、舞台公演、平和学習などにおいて確たる地位を築くためにも継続した実施が重要であると考えている。

そんな中、ボランティアで参加した大学生が「絵おと芝居」の開催意義及びその効果を強く感じ、次世代を担う若者が紙芝居（絵おと芝居）を活用した平和発信を活動目的とする団体を結成した。まち物語制作委員としてはこの団体を全面的に支援することで、紙芝居文化の普及促進、平和学習への寄与、青少年の健全育成に取り組んでいきたいと考えている。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

まち物語制作委員会の活動主軸は物語の制作およびそれを活用したまちづくりにですが、限られた人員の中で活用まで手が回らない状況にでした。そんな中、今回の取り組みが前項で記したように各も大きな波紋を呼んだことはコロナ過の中で実施できた以上に大きな喜びです。支援いただいたマツダ財団様には心より感謝しています。今後は私どもに代わり実施する大学生グループを全力でささえます。マツダ財団様におかれましても、継続支援とらえていただき若者たちによる新時代の紙芝居である「絵おと芝居」へのご支援をお願いいたします。

活動名	No. 10	団体名	ひろしま美術研究所 アルセス
臨床美術からのアプローチ ～発達障がいを持つ子ども達と保護者へ～		活動拠点	広島市南区
		代表者	大橋 啓一
		支援金額	39万円

**団体紹介**

母体となるひろしま美術研究所は、広島では最初の本格的に美術を学ぶ場であり、これまで数多くの人たちがアトリエに集い、研究所としての経験を深めてまいりました。2004年には新たに臨床美術を取り入れ、地域社会と美術をつなげる存在として幅広く取り組んでまいりました。2014年、臨床美術を中心としたグループ名「アルセス」を立ち上げ、役割を明確化し、より一層の社会貢献の充実を目指すことといたしました。

臨床美術という手法を使い、絵やオブジェなどの作品を楽しみながら制作する事によって脳を活性化し、高齢者の認知症の予防や脳障害症状の改善、働く人のストレス緩和、子どもの感性教育などに効果の期待出来る芸術療法の実施。

**活動概要**

子どもの情操教育、発達障がい者のケア、F E L O Rモデルの実践として『臨床美術』を、発達障がい児へ定期的に実施しました。対象者は、「安芸ソーシャルサポートの会」幼稚園児・小学生と保護者 10名。スタッフ3名で実施。これまでの研究では、月に2回臨床美術を実施することが最も効果が高いと謳われていますが、予算やスタッフ、対象者の都合上、8月～12月全10回を実施しました。

臨床美術による芸術療法の効果は、心身の健康や忍耐力、やる気、自信、協調性といった「非認知的能力＝生きる力の基礎」を育むきっかけを提供することを目的としています。障がい児自身も他者も肯定でき、クリエイティブな発想を身につけます。

【実施の流れ】

セッション内容	具体的な内容・主な意義
出迎え/挨拶	・受容されている事の確認
導入 (イメージ喚起)	・リアリティーオリエンテーションや回想法など ・リラックスした雰囲気、コミュニケーションを楽しむ
アートプログラム (脳を活性化)	・非日常空間の提供により、発想の転換（再発見）を喚起する ・五感を刺激する制作により、決断力、選択力を高める
鑑賞会 (みんな違っていい、みんないい)	・上手、下手といった評価をしない ・その人らしい感性から生まれた作品の、制作工程や良いところ認め、具体的に褒める ・その場の人たちと、個々の作品の良さを共有する
挨拶/見送り	・握手して送り出す→次回への制作意欲へと結びつく



作品制作風景



作品制作風景



鑑賞会風景



親子作品

◆実施に伴う効果

回を重ねる度にオリジナルのアレンジを加えるなど制作意欲が増していき、個々の個性を生かした作品になっていきました。保護者の方も子どもの様子を気にすることなく、集中して制作に取り組まれる様子も見られ自分の作品と向き合うことで非日常の時間を過ごしていました。鑑賞会の際には、親子でそれぞれの作品を見て率直な感想を言い合うなど共通の体験からの会話は笑顔が多く良い時間を過ごされた様子が伺えました。個々の表現をしていくことで、自己肯定感が生まれそれぞれの感じた事や工夫した所などを伝えてくれるようになり自然と会話が増えた。

◆苦労した点

コロナの感染状況を見極めながら日程調整等をし、実施しました。マスク・フェイスシールドをしているので表情が読み取りにくく、会話が聞こえにくい様に感じました。障害の程度により、理解度、作業スピードにばらつきがある。

◆今後の課題・発展の方向性

今後は、イベントなどに関連した作品制作を行うようにしていく予定です。  
【例】芋ほり体験の後、「さつまいもの量感画」（さつまいもから感じた表現をし、作品に仕上げる）など。  
ご参加頂いたご家族間やスタッフとのコミュニケーションはありましたが、他の参加者同士のコミュニケーションはあまり見られませんでした。コロナ禍なので控えられていたのかもしれませんが、他者の作品や感じ方にも興味を持って積極的な発言をして頂けるような雰囲気在今后作っていきたいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

2年間、マツダ財団から助成金を頂き、沢山のふれあいを学びの機会を頂きました。初めは不安そうに参加をされていた方々でしたが、子ども自身だけでなくその家族が、安心感を頂き、保護者の方が子どもの自由な表現を暖かく見守り受け入れている姿がとても印象的でした。

活動名	No. 11	団体名	永田川カエル倶楽部
コロナ禍における森・里・川・海の環境保全活動 ～家族単位と分散で3密防止～		活動拠点	江田島市
		代表者	池田 朝雄
		支援金額	10.5万円

団体紹介
<p>1.結成時期：2003年8月</p> <p>2.構成メンバー          幼児+児童=年長1名+1年生1名+3年生4名+4年生1名+5年生2名+6年生4名 15人          中学生=3年生3名、指導者+保護者=9名 <span style="float:right">合計 24人</span></p> <p>3.結成の目的          鹿川の地域の身近な自然環境の宝である永田川と永田川河口の干潟は、多様な生物が生息する環境として保全・再生する必要がある。本倶楽部は、地域の子供達・保護者・行政と協働・連携して、子供達は遊びながら、“楽しく、ゆっくり、あせらず”永田川流域（流域面積 2.0 km<sup>2</sup>）の「森里川海」の環境保全・再生活動に積極的に関わっていくものである。</p> <p>4.活動方針          安全第一です。2003年8月から2022年2月まで事故は発生していません。</p>

活動概要
<p>【森】活動は新型コロナウイルス感染拡大の谷間に実施できた</p> <p>① 野登呂山林道（約5km）：4月と10月に10時～15時。4月が14人、10月14人</p> <p>② 真道山林道（約3km）：9月14人 *両林道ともにポイ捨てごみが極めて少なかった</p> <p>【里=国道487号、市道鹿川20号線、市道鹿川～岡大王線】コロナ禍のため家族単位で実施</p> <p>① 道路：毎月清掃作業は家族単位で参加者は3人～5人</p> <p>② 国道487号の緑地帯の草刈りや刈り込みは年3回。参加者は2人</p> <p>③ 国道487号ヒガンバナの定植は6月に実施。参加者は8人</p> <p>【川=永田川】コロナ禍のため家族単位で実施</p> <p>② 清掃活動と水質調査は毎月</p> <p>②水生生物調査とウナギ生息調査は夏休みに実施した。参加者は3人～6人</p> <p>③ 草刈りは5月と7月と11月の3回実施した。参加者は2人</p> <p>【海=永田川河口干潟】活動は新型コロナウイルス感染拡大の谷間に実施できた</p> <p>① 清掃活動日は4月と5月と6月。参加者はそれぞれ15人、13人、13人</p> <p>② イカの産卵場づくりは4月と産卵確認は6月清掃活動の後にした。</p> <p>【青空発表会】福山市での青少年アダプトコンテストが中止になり活動の成果発表</p>



【里】6月緑地帯にヒガンバナの球根を定植。ヒガンバナロード完成



【川=永田川】8月の水生生物調査・ウナギ生息調査



【海】4月の清掃活動後イカの産卵枝の取り付け



2022年2月12日家族で青空活動発表会を実施

◆実施に伴う効果

- ① 新型コロナウイルス感染拡大の波が何回も来ますから、対応能力が付きました。
- ② 干潟のイカの産卵枝で、イカも枝の好みがあることがわかりました。
- ③ 学校でも家族でも体験したことがない体験をしているためか、子供達が生き生きしている。
- ③ 彼岸花の球根を緑地帯にみんなで植えました。
- ④ 新型コロナウイルス感染拡大により林道の散策者が減少してごみも減少していた
- ⑤ 活動の成果として青空活動発表会を開催した
- ⑥ 「水生生物調査とウナギ生息調査」及び「イカの産卵枝の種類による産卵効果」の報告書を作成し家族単位と鹿川漁協、さとみ館、広島県環境保全課、江田島市地域支援課に配布した

◆苦労した点

- ① 新型コロナウイルス感染拡大の第六波で、2022年の1月と2月の活動は中止にした
- ② 2か月間は池田一人でアダプト活動と水質調査を楽しく実施した
- ③ イカの産卵枝の設置で漁船の目印となる4m以上のメダケを長さ1m程度の杭を打ち込み取り付けることを鹿川漁協に提案して了解を得た。なお、その沖合10mにアマモの保護を目的として、腰まで浸かりながら保護杭を打ち込み約4.5mのメダケを取り付けた。これは、昨年末の強風等により抜けた。杭の打ち込みが不足した可能性が大である

◆今後の課題・発展の方向性

- ① ウナギの保護のために餌となる水生小動物（メダカ、スジエビ、ヤゴなど）の棲家や餌場である水草を保全
- ② 放流は生物の遺伝子の攪乱を招くためにやらない
- ③ ひたすら水生生物が棲みつくのを待つ
- ④ 新型コロナウイルス感染拡大中は各家族年間2回の活動する
- ⑤ 子ども達と保護者で2030年3月まで活動する
- ⑥ イカの産卵枝の設置は10か所と産卵調査を2030年まで継続する
- ⑦ 新型コロナウイルス感染拡大が収束してJICAの研修生と道路の維持管理の意見交換をしたい

◆活動を終えての感想・意見等

新型コロナウイルス感染拡大により、活動が制限された。しかし、干潟でのイカの産卵枝の設置と産卵確認と、永田川での水生生物調査とウナギの生息調査の大きな活動は、新型コロナウイルス感染拡大の休息期間であったため活動できた。このことは、子ども達や保護者にとって、ストレス解消など精神面のリフレッシュになったと考える。春と秋の真道山と野登呂山の登れたことは、子ども達や保護者にリフレッシュ効果は多大だったと考えます。

活動名	No. 12	団体名	チーム豆っこ
綿花栽培から世界に一つの手織りハンカチ作り		活動拠点	東広島市
		代表者	永岡 佳子
		支援金額	36万円

**団体紹介**

河内町中河内に住む、農家の60代の嫁が主体の4名のグループです。これまでは、仕事の合間に各々が野菜づくりを趣味の範疇で行ってまいりましたが、地域の為に何かやりましようということで、2018年3月に設立しました。

当地域では、少子高齢化により人口が減少するとともに、耕作放棄地が増加、更に近年は河内駅の無人化や小学校の統合など、町の衰退傾向が顕著となり、人口減少への歯止めが喫緊の課題となっております。

こうしたなか、子供を育ててきた経験を生かして、次の世代を担う子供の育成に少しでも手助けが出来る活動をしたいと思いました。2019年には「A Iに負けない子供育成プロジェクト（子供達で耕作放棄地から味噌販売）」の採択を受け、その後毎年継続して小学生と一緒に大豆栽培から味噌づくり・販売を継続して実施しております。

**活動概要**

畝作りマルチ敷き、綿花や草木染用植物の種蒔きから収穫、糸紡ぎ、草木染、手織りハンカチ作り、コットンボール販売迄を河内小学校4年生（11人）に体験して頂きました。（参加人数：延べ120人）

実施内容	1	6月17日（木）	畝作り、マルチ曳き、綿花・藍の種蒔き、マリーゴールド苗移植
	2	7月14日（水）	綿花の支柱建て
	3	11月4日（木）	コットンボール収穫、種取り、糸紡ぎ
	4	11月17日（水）	ジンキ（綿筒）作り、糸紡ぎ
	5	11月20日（土）	文化展にてコットンボール販売
	6	12月15日（木）	草木染（藍・マリーゴールド）（講師：村尾きみか氏）
	7	1月12日（水）	手織ハンカチ作り（講師：村尾きみか氏） ※ケーブルTV他取材有り



畝作り



種蒔き・支柱



文化展にてコットンボール販売



綿繰機で種取り



コットンボール収穫



ドラムカーダーでジンキ作り



スピンドルで糸紡ぎ



糸車で糸紡ぎ



藍染め



マリーゴールド染め



足踏み式手織り体験



小型手織り機でハンカチ作り



ハンカチ完成

◆実施に伴う効果

- ・土づくり、種撒き、収穫という農業生産過程を一通り体験するなか、小さな虫が葉を食いあさると枯れること、陽当たりが悪いとコットンボールまで成長しないことなど、植物と環境の関係を理解して貰えました。
- ・コットンボールからジンキを作ってスピンドルで糸紡ぎをして糸にすることが、あまりにも大変なことを知り、昔の人の忍耐力の高さを感じていたようです。
- ・草木染では藍やマリーゴールドなど植物で色が付くこと、その色も自然の優しい色になることを知り、また、手織りでは、布が縦糸と横糸を交互に編むことで、強い布が出来ること、昔は家庭でも織っていたことをわかってもらいました。
- ・コットンボールの販売では、原材料の調達から製品作り・販売までを全て体験したことにより、これから大人になってお金を得るためにどのような事をしなければいけないかといったことも理解していました。
- ・このように、現在ではほとんど見ること、体験することのできない「綿花植え・糸紡ぎ・草木染・手織り」を通じて、太陽、風、土、虫、コットンボール等に触れ合いながら、クラスメートと一緒に活動することにより、五感を磨くことともに、自ら学び自ら考える力、自己効力感、自己肯定感、他人を思いやる心などが育んだものと感じています。

◆苦労した点

- ・スピンドルでの糸紡ぎは大人でも長時間必要で、そのポイントを教えるのが大変でした。しかし子供たちは家に持ち帰り1カ月くらい練習したので、とても上手になりました。
- ・子供たちと一緒に活動は7回でしたが、そのための下準備等に想像以上の作業や時間（累計約200h）が必要でした。また、草木染や手織りの試作など、スタッフも初めての体験のため、約1年間も毎週講習会に通って技術を付け、何とか最後までハンカチ作りを全うすることが出来ました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・今回 11 名の児童が対象でしたが、4年度は 18 人と多いため、技術力を備えたスタッフの増員が不可欠です。
- ・藍は育ちましたが、それを使った藍染を行うには夏の時期でないと駄目だと初めて知りました。その為今回は藍染用の染料粉末で代用しましたが、次回は育てた藍で草木染が出来るよう学校と調整したいと思っております。
- ・今後は子供達に放課後いつでも糸紡ぎや手織りが出来るような仕組み作りを目指す予定です。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・活動中の子供たちのきらきらと光輝く目や最高の笑顔を見るなか、学校で教科書を見て学習することも大切ですが、今回のような子供たちがワクワクするような体験をもっともつとすることが、大切なのではと改めて実感しました。

活動名	No. 13	団体名	近畿大学工学部 教育情報システム研究室
地域の生産者を応援するためのアイデアを形にする プログラミング教室	活動拠点	代表者	東広島市 加島 智子
	支援金額		38万円
	団体紹介		
<p>2010年より近畿大学工学部の教育情報システム研究室が結成。大学で学んだ経験を身近な人、地域の人に還元させることを目的として取り組みを行なっています。私たちの得意とするプログラミングを地域の子供達に遊びを通して技術を伝えます。プログラミングの習得だけを目的とせず、問題解決するため、世代の違う地域の人、大学生、小学生と一緒に考え、話し合い、アイデアを形にしていきます。自から作り出したシステムが誰かの役に立つことを感じ、感動を与えたいと考えています。</p> <p>マインド：学びの中で「アイデアを形にする」・「感動」を経験する。 スタンス：教えるのではなく「学びをサポート」する コンテンツ：1つ解を求めるのではなく、「正解のない問題、参加者が作り出す問題」に挑戦する</p>			
活動概要			
<b>イベント①</b>			
日 時：11月3日(水) 13時30分から15時30分			
場 所：黒瀬生涯学習センター			
参加人数：10人			
実施内容：1回完結のイベント、アンブレグド教材を用いたプログラミング教育			
<b>イベント②</b>			
日 時：11月27日(土) 13時00分から15時00分			
場 所：府中天満屋 i-coreFUCHU			
参加人数：11人			
実施内容：1回完結のイベント、アンブレグド教材を用いたプログラミング教育			
<b>イベント③</b>			
日時：10月16日(土), 10月30日(土), 11月13日(土) 13時30分から15時30分			
場所：東広島芸術文化ホールくらら			
参加人数：14人			
実施内容：3日間のイベント、ビジュアルプログラミングを用いたアイデアのプログラミング			



イベント①の様子(2人グループでの実施)



イベント②の様子(1人での実施)



イベント③の1日目の様子  
(3人グループでアイデアを考えながらの実施)



イベント③の3日目の様子  
(アイデアを形にするため工作を交えてプログラミングしている様子)

#### ◆実施に伴う効果

地域の子供達、その保護者、実施に関わった大学生すべてに得るものがありました。今回のイベントにより、地域の子供達同士の交流、子供と大学生との交流の場を作ることができました。また、プログラミングを学ぶことの意義、自分の困ったことや人の困ったことを、プログラミングを通して解決することができる疑似体験してもらい、プログラミングに興味をもたせ学びたいと思うきっかけを作ることができました。さらに、参加者の保護者もプログラミングについて学ぶきっかけや、イベントを通して子供達の成長の様子を、発表会を開催することでみてもらい、実感してもらうことができました。イベントを実施した大学生も地域の子供達と触れ合い、大学生生活にて学んできたプログラミングをどのように興味を持ってもらうのか、どのように役立つのかを子供達に伝えることで、情報を学ぶ大切さを再認識することができました。

#### ◆苦労した点

コロナ禍のなかで、急遽予定していた内容の延期、中止、内容の大幅な計画変更があり試行錯誤での実施となりました。オンラインでの実施も並行して計画を行いましたが、規模を縮小して対面での実施が可能となりました。「密」をつくるなという社会風潮の中、どのように実施することが正解なのか大変悩みましたが、最低限の範囲の中で人との協力しながら作るプログラミングの体験をしてもらうことができました。地域の生産者との交流は実施することができませんでしたが、代案を立てての実施となりました。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今後は、地域の大人にも参加してもらい交流の場、地域の人が困っている問題を子供達の考えるアイデアやプログラムで解決する取り組みを行なっていきたいと思います。また、継続的に自ら学べる学習環境の提案などをすることができたら良いなと思いました。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

今年度の活動を終えて、コロナ禍で大変な部分もありましたが、やはり【対面・人と関わりながら】実施するイベントに大きな意味があると感じました。1人でのイベント、グループのイベントでは楽しさ、学びも違ってくると実感しました。子供達は学校などの教育現場では密を作るなど、子供同士の関わりが減らされています。さらに、プログラミングは、1人で学べるというイメージがありますがやはり、特に小学生などの年齢における学びでは、人との関わりを持ちながら議論して協力して一つのを完成へと導く学びは大きな意味があると実感しました。

活動名	No. 14	団体名	浦崎地区社会福祉協議会 UMEプロジェクト
空き家利活用の「居場所」運営 「学習支援」「こども食堂」「多世代交流サロン」		活動拠点	尾道市
		代表者	高橋 真理子
		支援金額	38万円

**団体紹介**

2019年11月「空き家利活用」のこどもと多世代の居場所づくりに向けて、任意団体「UMEプロジェクト」を発足。2020年地区の社会福祉協議会の活動となる。構成メンバー理事6名正会員11名の17名に加え大学生・高校生の参画総勢メンバー47名。次世代を担う地元の大学生と地域の住民参画によって、この地域のこれからを担っていくこどもたちを、空き家を利活用した、学校や地域公認の「居間」のような居場所を運営し、青少年やこどもたちが、いろいろなことに興味を持って、体験を通して多くの感動を得られるよう取り組んでいくことを目的とて結成。2020年10月より地域住民参画のもと地元福山市立大学との共同研究により「空き家再生リノベーション」を行い、2021年5月居場所「UME House」を開設。平日 月曜日から土曜日まで毎日開設、月平均280名の利用実績。様々な学びを支援する「学習支援」や温かい食事を提供する「こども食堂」を運営

「居場所」の提供により、多世代交流の「場」を若者（地元大学生や、関係人口の高校生などの若者を中心）や地域住民・各種団体行政など、横の繋がりを密にして取り組んでいく。

**活動概要**

2020年10月～2021年4月 「空き家再生リノベーション」活動を地域住民と地元大学との共同研究により行う

2021年5月1日 「居場所」UMEhouse うらしま オープニングセレモニー開催 尾道市長や行政関係者の参列

2021年5月のG・W明けより 平日 月曜日から土曜日まで毎日「居場所」を開設 月平均280名利用実績

2021年7月31日 こども企画・運営の「お店屋さんごっこ」を開催 （コロナ禍の為 夏祭りを縮小して 居場所敷地内の室外で開催 参加50名）予算を与え 小学生が自分たちで企画・運営で5つのお店を出店 2万3千円の利益を生む

2020年からの継続で、オンラインによる「学習支援」事業を毎月開催

2021年11月 こども食堂「うらしまみんなの食堂」を開催 月1回～2回ペース 地域の保健推進委員などの高齢者が中心となり 地元JA様や尾道市社会福祉協議会の協力を頂きながら 地元の野菜などを提供いただく。JA 尾道様の取材も入る。

2021年6月 NHK ひろしま「おこのみワイド」取材を受け 放映

2021年7月9日 備後経済情報誌「ビジネス情報誌」子育てフリーペーパー「びんまる」の取材 掲載

2021年11月 広島県中山間地域「さとやま GOOD プロジェクトオンライン」に小学生が地域の魅力発信オンラインを開催

2021年12月24日こども食堂 クリスマス会開催 45名参加

2021年12月25日こども食堂 お餅つき会開催 50名参加（福山市内のお米会社様からのご協力で開催）



2021年7月31日おみせやさんごっこ



2021年11月「うらしまみんなの食堂」風景



2021年11月 さとやまGOODプロジェクトオンライン



2021年12月お餅つき会

◆実施に伴う効果

「空き家利活用」の地域の居場所として、地域の「ハブ」となる「場」としての実績の構築が出来、こどもから高齢者まで月280名平均の利用者となったことは、開設から1年足らずで大きな効果をもたらしたと思える。また、これからの地域の未来を担うこどもたちの健全育成に地域住民のみならず、今年度より尾道市立大学よりボランティアサークルの学生さんが副学長のすすめにより活動の場として参画いただけたことは、とても大きな成果と捉えております。マツダ財団様の若者ツナグ場に向けても、大学に向けての案内などが出来、また、参画してくれている大学生が自主的に今後の「UMEプロジェクト」での活動に向けて、学生が中心となつての取り組みなどを企画してくれることに繋がられ、来年度の団体の活動に向け、更なる飛躍に繋がっていると思います。特に来年度に向けての教育機関（地元高校など）との協働にも広がり、おおきな成果と思っています。また、県や市教委との連携にも繋がり、より一層、青少年健全育成に向けて、横の繋がりの中での活動の構築をしていきたい。

◆苦労した点

居場所の利用者も地域のみならず、市内の遠方からであったり、隣接する福山市からの利用者も増えてきている点は、喜ばしく思っていますが、この備後圏域において「不登校」や家庭に課題を抱えるこどもたちの数は半端なく、そのあたりに活動を広げていきたいと思っはいるが、なかなか資金繰りが乏しく、今後の団体の活動に向けても助成金のみではなく、自主的に運営を持続可能にしていくための仕組みがまだまだ、難しく、団体としての大きな課題を抱えています。

◆今後の課題・発展の方向性

団体として、実践してきた活動や事業を更に地域に定着させ、継続的に推進していくことや、周辺地域への活動を広げていくために行政や関係団体との連携を深めていくことが課題であり、社会的にも認められた公的な組織にしていくことが最良の策であると考え、NPO法人化に向けて、県の担当課との相談にも入っており、青少年の健全育成を目的として、更に地域の文化継承や地域資源の再開発といった、まちづくりに向けて、地域の活性化をこども・若者を主体として取り組んでいきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度もマツダ財団様の採択をいただけ、大きな原動力となって活動を続けられましたことに、心より感謝の気持ちで一杯です。地域の未来を担うこども・若者に主体となって、地域の社会課題に取り組んでもらえるよう、更なる活動をもって、地域一体となって取り組んでいきたいと思っています。

活動名	No. 15	団体名	備後絃音頭をつなぐ会
子どもたちの力でふるさと再発見 ～つたえよう、ひろめよう備後絃音頭～		活動拠点	福山市
		代表者	河村 規行
		支援金額	18万円
団体紹介			
<p>備後絃音頭をつなぐ会は2010年末に地域の宝である「備後絃音頭」の唄と踊りを誕生の思いと共に正しく伝え、次の世代へ残していこうと活動を始めました。</p> <p>子どもたちが加わって子ども三味線教室が始まったのは2013年です。</p> <p>備後絃音頭の継承、普及活動に関わることで、子どもたちがふるさとの備後絃の文化を学び、地域を育んだ歴史・文化に触れることで、ふるさとに誇りと愛情が芽生えたと考えています。</p> <p>我々大人も含めて地域を大切にすることが生まれることを目標とする活動です。</p>			
活動概要			
<p>今年度もコロナの影響を受け、福山市のイベントが次々と中止となり、子どもたちが参加し演奏を披露する場は限られてしまいました。</p> <p>小・中学校の運動会で備後絃音頭を踊り、その演奏をするのが毎年、活動のPRにもなり、楽しみのひとつなのですが、今年は7校のうち新市中央中学校と戸手小学校の2校にとどまり残念な思いでした。</p> <p>しかし、延期になっていた「備後ブルーフェス」が少しコロナの落ち着いた時期にアイネスフクヤマで開催され、今年度一番の発表になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5/ 2 新市中央中学校運動会 参加</li> <li>・ 10/31 「備後ブルーフェス」参加</li> <li>・ 11/20 戸手小学校運動会 参加</li> </ul> <p>○子ども三味線教室は学校施設が使用できなかった期間を除き開催</p>			



新市中央中学校運動会 5/2



戸手小学校運動会 11/20



備後ブルーフェス 10/31



キラキラ子ども三味線教室 練習風景

◆実施に伴う効果

本年度もコロナ禍でのイベント中止や活動の制限で多くの行事が中止となり、発表の場に恵まなかったことは残念でなりません。子どもたちにとってはこの活動に限らず大切なこの時間が失われ通常であればいろいろな経験ができたであろう時間は何かの形で大人が支えなくてはならないと思います。

子ども三味線教室の活動は、多くの人の前で演奏し対面でふれあう中で子どもたちの心の奥底に宝となって宿るものです。悔いは残りますが「備後ブルーフェス」への参加は午前の部、午後の部2回の出演でステージの主役的な役割を果たすことができ、子どもたちなりに達成感を感じることができたと考えます。

◆苦労した点

平常であればできたであろう活動の5分の1程度のことしかできなかったのは確かです。

人と人とのふれあい、つながりが大事なこの活動でこの状況下子どもたちに与えてやるのが、如何に限られるかづく実感しました。コロナが収束し、平常の生活に戻ることを祈るばかりです。

◆今後の課題・発展の方向性

少子化と興味の多様化で、これから子どもたちをどうひきつけるか。重い課題です。近隣の学校への働きかけやコツコツと歩みを止めることなく思いをめぐらせて進むうちには希望も見えてくると信じています。

◆活動を終えての感想・意見等

今回、ご支援をいただいて3年目が終わります。これまでの支援に深く感謝申し上げますとともに、財団の発展を心よりお祈り申し上げます。

また新しい出会いをいただけたことにも感謝いたします。

子どもたちを豊かに育むことは私たちの永遠のテーマです。歩みを止めることなくこれからも考え続けていきます。

活動名	No. 16	団体名	災害復興支援団体 山口災害救援
山災塾 ～2期生若者対象災害ボランティア育成プロジェクト～		活動拠点	岩国市
		代表者	村林 理恵子
		支援金額	20万円

**団体紹介**

平成 17 年の台風 14 号では、岩国地域で大きな洪水被害があり、美川町災害ボランティアセンター（設置：美川町社会福祉協議会・山口県社会福祉協議会）が設置されました。この災害がきっかけとなり、現地に駆け付けたボランティアが、今後も一緒に災害ボランティア活動に取り組もうと、平成 19 年「山口災害救援」を結成し、ボランティア活動をしています。全国各地で発生する災害救援活動を実施しながら、その中で得たノウハウやスキルをもとに、災害ボランティアセンター運営スタッフやスーパーバイザーの養成を図り、災害ボランティアの普及と自主防災組織づくり支援等を行い、県民に災害ボランティアの理解と参加意欲の醸成を図ることを目的としています。現在は、災害支援ナース、気象予報士、社会福祉士、電気工事士、水産関係者、農業関係者、林業経験者、栄養士など各分野の社会人だけでなく、大学生も入り、毎年、被災地で活動しています。

**活動概要**

**10月3日 1回目 オンライン研修会 13時～16時**  
 受講生 30人中 19名参加 スタッフ・講師 12名 オブザーバー1名 合計 32名  
 内容 「災害ボランティアについて学ぶ」

1.災害ボランティアの概要、活動について理解する。『近年の災害について』について基本から勉強  
 災害対策基本法では、災害とは、暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう。\* 災害対策基本法施行令には、災害対策基本法第二条第一号の政令で定める原因は、放射性物質の大量の放出、多数の者の遭難を伴う船舶の沈没その他の大規模な事故とする。  
 ※災害ビデオを見ながら、「自分がこの場にいたら」「自分なら何をするか」をグループ討議  
 \*パニックになって何もできない \*外の景色を確認、買い物をする。\*身を低くして、頭を守る  
 \*逃げることしか考えられないが、パニックになって動けない。\*自分の家で被害が出れば無気力になりそう \*避難所に行く、情報収集する 等の意見が大半でした。

- ・災害の恐ろしさ・関連なる情報を知っておく(大きな地震の後に余震が続く)
- ・電話も一回つながっても、次には制限がかかりつながらない。・災害用伝言ダイヤル 171・SNS 利用・公衆電話等
- ・災害時にまず必要なのが水・通常時に地形・地質を意識して確認してみる。・皆で声掛け・助け合う気持ちが大

2. 「災害ボランティアについて」「災害ボランティアのお作法」  
 \*災害発災からボランティアに行くまでの体、心の準備  
 \*何のために活動するのか、誰のために活動するのかを考えて

**※グループ討議での質問・意見**  
 \*災害が発生した場合は、ボランティアセンターが必ず設置されるのか。\*主役は被害者である。  
 \*外国人の被害はあったのか。\*聴覚障害の方のニーズがあった。心に寄り添っての活動が必要。

3. 「災害ボランティアセンターについて」「被災された方」と『ボランティア』の関係  
 ※被災した住民や地域の生活再建を支援※設置判断※ボランティア活動基準を学んだ。

**11月7日 2回目 災害ボランティアセンターシミュレーション演習**  
 受講生 30人中 20名参加 スタッフ・講師 23名 オブザーバー1名 合計 44名  
 内容【災害ボランティアセンター体験シミュレーション】  
**設定 11/5 集中豪雨により、約 100 件程度の床下・床上浸水発生**  
**11/7 災害ボランティアセンター開設 初日**



4人ずつ5グループに分かれ、随時災害ボランティアセンターの受付・マッチング・オリエンテーション・資材・車両と本番変わらずに体験していく。その中でも新型コロナウイルス感染者を出さない工夫も体験する。シミュレーション後、グループ討議で[わからない事・気になる事]を話し合いスタッフが質問に対して、分かりやすく説明した。また、質問メモをセンター各所に配置し、思ったことを直ぐ書ける状態にした。3回目の検討内容にする。

### 12月5日 3回目(対面とオンラインのハイブリッド研修会)

受講生 30人中 18名参加 スタッフ・講師 11名 オブザーバー1名 合計 30名  
(内、オンライン参加 4名 スタッフ 1名・参加者 3名)

- ・あなたはボランティアとして何がしたいか。(グループ討議)
- ・あなたは運営スタッフとして何がしたいか。(グループ討議)
- ・研修の振り返り・質問・補足説明(おさらい)

演習に参加していない人の為に、11/7の災害ボランティアセンタービデオ上映。

※2回目参加者より17の質問に対して、グループ内で話し合い理解する。

議題である「あなたはボランティアとして・運営スタッフとして何がしたいか。」グループ討議  
各班個性があり、時間の足りない有意義な時間となった。



救護班にてエプロン・ゴム手袋の脱着方法実演



救護班にて説明を受けてます。



参加者アンケート内容 回答率 75%

- ・こまめな休憩やグループディスカッションがあり、あっという間の3時間でした。11月のシミュレーションに入る前に、災害ボランティアとは何か、ボランティアセンターとは何かを知ることができてよかったです。
- ・実際にボランティア活動を行う際の流れを確認することができて助かりました。また、災害現場のあるあるを、経験豊富な皆さんから伺うことができ、とても有意義な時間となりました。
- ・(現場とはもちろん違うかもしれませんが) ボランティアへ向かうまでのプロセス、災ボラ QR や資材などボランティア時でしか普段は見られないものを実際に使うことができ、本当に感動しました！体験を通して一通りの流れを理解できたことで、「わからないこと」にも気付くことができました。わからないことを持ち帰ることなく、山災スタッフさんにその場で教えていただけたのもありがたかったです。

#### ◆実施に伴う効果

災害に関心のある若者が、前回の山災塾1期生同様に定員30名に対し33名以上の申し込みがあり慌てましたが、3名は1期生の卒業生でもあるためスタッフに回って頂くほどの申込でした。

まずは、参加者ひとり1人真剣に取り組んでいただいた事に主催者として感謝しております。

3回の研修会を通じて、新型コロナウイルス感染防止を踏まえたボランティアセンター運営方法に理解してもらえるか不安でしたが、参加者皆様が一つひとつ関心を持ち、バーコードリーダーを使用した受付方法

など、マッチング方法・ニーズ調査などもっと知りたいという気持ちが伝わってまいりました。

「何かの為に役にたたい」その気持ちが、自分の命・大事な人の命を守る為に動いて下さることを願います。

#### ◆苦労した点

今回は新型コロナウイルス蔓延に伴い、会館等が使用出来なくなるという事態に、頭を抱えました。

#### ◆今後の課題・発展の方向

今まで使用していた会館の取り壊しに伴い、新たに会館等が出来る会館等を模索中です。また今後は、1日を掛けてもっと体験型の研修を検討していきたいと思えます。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

今回は主催者泣かせの取り組みでしたが、オンラインという新しい分野への取組が出来たことは、私たちも1歩進歩がありました。今後生かしていきたいと思えます。

活動名	No. 17	団体名	岩国子育て支援ネットワーク
Iwatan 子育て愛ねっとアカデミー		活動拠点	岩国市
		代表者	加藤 善美
		支援金額	32万円

### 団体紹介

平成 23 年度に、岩国短期大学と市内の関係機関（岩国市保育協会、岩国幼稚園協会、岩国市保健センター、独立行政法人国立病院機構岩国医療センター）と連携して、「岩国子育て支援ネットワーク（Iwatan 子育て愛ねっとアカデミー）」を設立し、次のような方針・内容で子育て支援事業を展開してきている。

### 【活動の方針・内容】

- 岩国短期大学幼児教育科の学生が参加する「親子ふれあい広場」を開催し、親子や地域の子育てにかかわる人々が集い、お互いの交流の「場」の構築に関する事項
- 保育士、幼稚園教諭、その他地域の子育て支援サービス提供者に対する保育、食育、健康教育等の質的向上に関する事項

### 活動概要

#### ■Iwatan 親子広場（年 6 回）（会場：岩国短期大学体育館他）

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、対面と Web により予定通り 6 回、次の通り開催。

- ① 『親子でワクワク表現遊び』（Web 開催：5/22～5/28、学生ボランティア 6 名）
- ② 『親子でパラスポーツに挑戦しよう』（7/10、参加 6 名、学生ボランティア 13 名）
- ③ 『元気に親子 de リトミック』（Web 開催：9/25～10/1、学生ボランティア 9 名）
- ④ 『できた！やったー！運動遊び』（10/23、参加者 19 名、学生ボランティア 9 名）
- ⑤ 『創造力を育てるあそび』（11/3、参加者 34 名、学生ボランティア 15 名）
- ⑥ 『ようこそ絵本の世界へ』（12/18、参加者 26 名、学生ボランティア 10 名）

#### ■第 11 回「Iwatan 親子フェスタ」※Web 開催

例年 1500 名程度の参加がある「Iwatan 親子フェスタ」は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、岩国短期大学のホームページ上での動画の配信。

◇公開期間：令和 4 年 3 月 6 日（日）～3 月 31 日（木）

#### ◇内容

- ① 挨拶動画配信（岩国短期大学学長、岩国市市長）
- ② 親子で楽しむ動画配信（学生 19 動画、岩国幼稚園協会 4 動画、岩国市保育協会 5 動画、岩国市保健センター 1 動画、岩国医療センター附属看護学校 1 動画、岩国商工会議所 3 動画、高大連携協定高等学校 7 動画、他 7 動画）
- ③ プレゼントコーナー：学生手作りおもちゃ（100）、猫缶バッジ（50）、クレヨンくんマグネット（32）



QR コードを入れた第 11 回「Iwatan 親子フェスタ」(Web 公開) チラシ

#### ■保育者対象研修会（年 2 回）（会場：岩国短期大学体育館）

7 月と 1 月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止



対面で行った「Iwatan 親子広場」



Webで行った「Iwatan 親子広場」



Webで行った第11回「Iwatan 親子フェスタ」の動画



景品として制作した学生手づくりおもちゃ

助成金で制作した景品の「猫缶バッジ」

◆実施に伴う効果

子育てにかかわる事業を関係機関と連携しながら、子育て支援事業を展開することができた。このことによって、①情報を多くの方に発信することができた、②子育て支援のみならず地域の活性化につなげることができている、③助成金により活動の充実が図られた、④地域貢献に努める人材育成につながっている、という実施に伴う効果を得た。

ちなみに、一人でも多くの方に簡単にアクセスしやすいよう、チラシにQRコードを入れ、広報活動に効果があった。

◆苦労した点

新型コロナウイルス感染症の対策により、活動の中止・延期・変更を余儀なくされた。本活動の目的を十分に達成することができず、歯がゆい思いの1年であった。最大のイベント「第11回Iwatan親子フェスタ」も、2年連続Webでの開催となり、対面でのイベントがかなわなかった。参加の関係機関も、動画制作時期とオミクロン株の感染急拡大が重なり、予定の半分ほどしか動画提供が得られなかった。

また、対人関係を主とする保育者の人材育成にとって、Webでの開催では、コミュニケーション能力、協働的なかわりの育成が難しかった。

◆今後の課題・発展の方向性

ここ3年、新型コロナウイルス感染症対策のため、活動に大きな制限がかかった中、リモートやWebでの新しいコミュニケーションツールにより、事業を継続することができた。その利点と課題を整理しながら、次年度は、対面で実施ができるように準備をしていき、多くの関係機関とのネットワークを充実させていきたい。そして、Webやリモートとの併用を用い、新しい事業の形態を模索していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団市民活動支援の助成金を缶バッジ製作用の用具や郵送費他の活動費に充てさせていただき、大変助かり、また、多くの方に喜ばれやりがいを感じている。このような制度があることは、大きな力をいただいた気がする。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策のため、十分な活動ができず、貴財団に対して申し訳なく感じる。今後もこのような制度を活用させていただければと考える。ありがとうございました。

活動名	No. 18	団体名	やまぐちトプランナープロジェクト
山口市在住の高校生を対象とした社会貢献アクションを通じて次世代のリーダーを育てる活動 ～マイ・チャレンジ～		活動拠点	山口市
		代表者	柿沼 瑞穂
		支援金額	38万円
団体紹介			
<p>結成時期：令和2年11月1日 構成メンバー：代表 柿沼瑞穂、事務局 児玉頼幸、小田亜貴</p> <p>団体目的：将来の地域の担い手である若者を、次世代のリーダーとして育成し、持続可能な地域をつくる。</p> <p>団体事業：①若者のリーダー育成に関する事業 ②若者と地域との連携を深める事業 ③若者への地域づくりについての情報提供や啓発に関する事業 ④持続可能な社会（SDGs）の推進に関する事業。</p>			
活動概要			
<p>高校生と、社会貢献を行う地域のNPOを繋ぎ、そのNPO団体の課題を解決するプロジェクトを大学生メンターの伴走支援を受けながら、高校生が実施する。この活動に参加する高校生、大学生は関係する講座を受け、プロジェクト活動（PBL：Project Based Learning。「課題解決型学習」）を実施する。</p>			
育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月3日（木）：JRC部『寄付の教室®』説明会、中央高校（高校生13名、教員2名）</li> <li>・6月20日（日）：学生メンターオリエンテーション、オンライン（大学生8名）</li> </ul>		
発掘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月11日（日）：社会貢献ファシリテーター研修、オンライン（大学生7名）</li> <li>・7月12日（月）：『寄付の教室®』実施、中央高校（高校生6名、教員2名、大学生2名）</li> <li>・7月13日（火）：『寄付の教室®』実施、中村女子高（高校生3名、教員1名、大学生2名）</li> <li>・7月15日（木）：『寄付の教室®』実施、野田学園（高校生23名、教員3名、大学生2名、県職1名）</li> </ul>		
育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月20日（火）：『寄付の教室®』実施、山口高校（高校生6名、教員1名、大学生2名）</li> <li>・8月1日（日）：第1回PBL講義、市民活動支援センター（高校生5チーム14名、大学生6名）</li> <li>・8月15日（日）：コミュニケーション・ファシリテーション基礎講座、オンライン（高校生5名、大学生2名、社会人2名）</li> <li>・9月19日（日）：第2回PBL講義、オンライン（高校生4チーム13名、大学生5名）</li> <li>・10月17日（日）：第3回PBL講義、市民活動支援センター（高校生4チーム8名、大学生5名）</li> <li>・11月20日（土）：第4回PBL講義、市民活動支援センター（高校生4チーム11名、大学生3名）</li> <li>・12月11日（土）：高校生による企画イベント実施、市民活動支援センター（参加者のべ100人）</li> <li>・12月19日（日）：最終報告会、市民活動支援センター（高校生4チーム15名、大学生4名、NPO/一般14名）</li> </ul>		
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月25日（火）：PBL座談会・ネットワーク交流会（県内関係者8名）</li> <li>・2月6日（日）：学生メンターふりかえり会、市民活動支援センター（大学生3名、事務局2名）</li> </ul>		



学生メンター研修。社会貢献教育ファシリテーター養成講座。コロナ禍のためオンラインで実施した。日本ファンドレイジング協会の指導の下、社会貢献とは何か、NPO活動とは何かを学んだ。ファシリテーターとして「寄付の教室」®を高校で実施するためのノウハウを学んだ。大学生にとっては資格取得へのきっかけにもなった為、好評だった。

学生メンターによる寄付や社会貢献に関する出前授業の様子。養成講座で学んだ内容を実践する。最終的には、全体進行が行えるようにファシリテーターとして段階を踏んで指導を受けながら実践していく。



山口大学小川教授より、哲学ベースの課題解決手法について学ぶ。新たな価値、アイデアの創造は既定の概念を疑うところからスタートした。

成果報告会。マッチングした NPO の他、高校生の保護者、市民活動支援センター関係者の参加する中、NPO への最終提案を行った。4 か月半の課程を終え修了書を授与。山口県より取材が入った。

### ◆実施に伴う効果

#### ・参加した高校生

参加高校生の 73.3%が、満足、概ね満足度と回答。その理由として、「想像以上に、地域の NPO に密着して活動するのだな」と思い達成感が大きくなった」「学校の探究学習よりも、深く考える力が求められ、哲学を混ぜて考えたこともいい経験になった」「NPO の活動をよく知ることができ、その活動に少しでも貢献することができて、とても嬉しかった」「地域で起きている問題や課題を把握することができた」「問題を見つけた時に、高校生だからと諦めず、課題を見つけ、提案していこうと思った」などの声があり、高校生の自信ややる気を育むとともに、新たな価値との出会いを提供することができた。中には、「時間が足りず、満足のいく提案ができなかった」「アイデアはあっても、現実的に成果が出そうになく難しかった」「想像と違った」などの意見もあったが、途中放棄したチームはなく最後まで責任を果たす姿勢が見られた。そこには学生メンターの伴走支援の効果もあったと感じる。

#### ・メンター大学生

高校生と共に課題解決手法を学び、さらに高校生の伴走支援を通じて、社会を見る目やコミュニケーション能力、課題解決能力が養われた。また、ファシリテーション能力は出前講座を実施できるようまで成長した。

#### ・NPO

高校生からの活動について調査を受けたり、活動を一緒に行ったりすることで、より多くの若者に活動内容を認知された。特に、2 団体は広報用の動画資料などを作成するきっかけとなった。

### ◆苦労した点

- ・コロナの影響でスタートが 2 か月遅れ、全体スケジュールがタイト気味になった。
- ・企画の趣旨を学校側に受け入れていただくにあたり、十分な資料や見込みの成果を示せなかった。
- ・高校生、大学生共に多忙で長期間のスケジュール管理が困難だった。
- ・高校生の能力について、コミュニケーション・ファシリテーション力について、想定とのギャップがあり、急遽、追加で講座を行うことになった。
- ・初年度だったため、十分な資料や見込みの成果を示せなかった。

### ◆今後の課題・発展の方向性

【課題】 ・学校連携 ・意欲関心の高い学生メンターの発掘、育成

【今後の方向性】

- ・学生メンターの人材育成に重点を置き、伴走支援力を強化し、高校生へより充実した学びの場を提供する。
- ・マッチングする NPO の候補数を増やし、高校生がより広い分野のなかから関心のある課題を選べるようにする（現在、災害、まちづくり、子ども、環境、福祉など 7 団体 5 分野）。
- ・若年層の人材育成など、類似の活動を行う団体との意見交換会や連携等で協働を進める。

### ◆活動を終えての感想・意見等

高校 3 年生の生徒さんから、「受験の際、この経験について、自信を持って自己 PR することができました。プレゼンの指導も活かすことができ、合格しました」と報告を受け、私たちが定義するトップランナー（地域の課題を自分たちのこととして捉え、気づき、行動できる次世代の人材）はまさに、大学や企業、社会が求める人材と共通していると確信しました。

思いばかり先走った 1 年目の団体でありながら、団体と活動を信じ、期待を寄せて頂いた、財団、学校、NPO のみなさまと、関心を持って参加していただいた高校生、大学生のみなさん、関係者の皆様にご心よりお礼申し上げます。

活動名	No. 19	団体名	囲炉裏の会
こども達の野菜づくり体験 ～植え付けから成育、収穫まで～		活動拠点	山口市
		代表者	竹田 哲郎
		支援金額	20万円
団体紹介			
結成時期	2015年（平成27年）9月結成		
構成メンバー	男性7名で立ち上げました。 現在会員16名（男性7名、女性9名）		
結成の目的	高齢者の拠り所となる場を提供し、高齢者自らが主体となって活動をすることで生きがいを見つけ、健康寿命の延伸を図る。 多世代の交流を盛んにすると共に活動を通して地域の活性化に寄与する。		
活動方針	高齢者自らが楽しみながら活動し、延長線上でボランティア活動を行い地域に貢献する。		
活動概要			
1. 第6回収穫祭 参加無料			
実施日 11月3日（水）13:30～15:30			
場 所 山口市黒川 囲炉裏の会菜園にて			
内 容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さつまいも一言知識（さつまいもの育て方、特徴、伝来歴史等）を親子で勉強</li> <li>・さつまいも収穫（芋掘り、焼き芋作り、）その他野菜収穫（ナス、ピーマン、レタスなど）</li> </ul>			
参加人数 55人（内、子ども22人 大人33人・スタッフ含む）			
* 収穫祭までの一連の菜園活動体験			
6月12日 芋づる植え付け、水くみ、水遣り実施 参加計30人（内子ども15）			
9月25日 野菜植え付け 除草、水くみ、水遣り つる返し作業			
菜園外行事			
12月5日 こども餅づくり体験会 参加計40人（内子ども16）			
せいろ蒸し、杵つきは、道具揃え準備が困難であったため機械つきにしました。			



6月さつまいも、芋づるの植えつけ体験作業「大きくなーれ」



6月菜園近くの川から菜園貯水タンクまで、みんなでバケツリレー



11月さつまいも収穫、芋掘り体験中



12月餅作り体験会「あん餅、きなこ餅、みかん餅も作ったよ」

#### ◆実施に伴う効果

- ・子どもたちが、野菜を植え、育て、収穫するまでの作業の流れを知り、体験が出来ました。また菜園の中の小さな生物（蛙、コオロギ、紋白蝶など）と接することが出来、自然とのふれあいが出来ました。
- ・地域の大人と子供達の交流が出来、大人からの見守り効果が期待できます。
- ・親子でもち米からお餅がつけるまでの過程を目で見て、餅をまるめる作業体験ができました。殆どのこどもが初体験でした。
- ・コロナ自粛の中でしたが芋掘り、餅作りとも地元の方達の積極的な協力を得ることができ、老若男女のコミュニケーションが取れ、地域の活性化に貢献出来たと思っています。

#### ◆苦労した点

- ・菜園活動については屋外でありコロナ感染予防のための3密をあまり意識しなくて済みましたが、他地域への呼び掛けが憚られ、菜園周辺のみ参加に絞らざるを得ませんでした。
- ・子供が参加活動できる土日祝が悪天候で中止し、平日に野菜の植え付け等行事を子供抜きで実施し、体験活動を変更しました。
- ・餅作りは屋内活動で、コロナ感染の懸念があり、会場内の飲食を全面禁止したことは残念でした。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・活動メンバーの故障多発で活動継続に不安がありました。菜園活動維持のための最低限の労力の確保が課題です。今回、地元山口大学の学生さんにボランティアをお願いし一緒に活動が出来たこと、菜園周辺の子育て家族が積極的に関わってこられたことから若い世代にも浸透しつつあり、幅広い年代の交流の場としての足がかりが出来、労力確保にも希望が持ててきました。

方向性としては、子どもの育成を念頭に地域の人たちとの交流を深め地域の恒例行事となる事が望ましいと思っています。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・マツダ財団様からのご支援によりミニ耕運機と、草刈り機を入手することができ作業が効率よく出来るようになりました。草刈り機は、周辺の草刈り頻度を上げることが出来、環境整備の面からも大変重宝をしています。ありがとうございました。
- ・毎年アンケートを取っていますが、「子どもに芋掘り体験させることが出来て良かった」との内容に来年もまたみんな頑張ろうという気持ちになります。

活動名	No. 20	団体名	竹林ボランティア俵山
小学生の竹林体験学習サポート活動		活動拠点	長門市
		代表者	久保田 浩
		支援金額	16万円

**団体紹介**

竹林ボランティア俵山は、平成 15 年度に山口県が開催した「竹林ボランティア養成講座」を受講した修了生が中心になって結成したボランティアグループで結成時期は、平成 16 年 3 月、その後規約を制定して本格的な活動を開始。

活動の目的は、放置された竹林を管理することの重要性を地域住民に普及し、放置竹林を地域から低減するとともに、タケノコ生産や竹材利用などを普及することを目指しています。そのため、タケノコ生産見本竹林を整備して、地域住民に竹林改良の指導研修の実施、タケノコ堀体験活動を実施してきました。竹材利用では、平成 16 年から地域の施設に門松を提供する活動や、竹炭作り・竹灯籠づくり・竹のプランターづくりなどを行っています。

こうした活動を続ける中、地域住民に竹林整備の普及活動を続ける方法として、小学生を対象に竹林体験を実施しながら竹林整備の必要性を地域に普及する活動を始めました。

初めは会員による手作りの竹林体験学習で、春のタケノコ堀体験と秋の竹林内での竹炭焼きや竹炭ペンダントづくりなどを行ってきました。活動は小学校の総合的学習の中で実施しましたが、小学校が学習指導計画に基づいて授業を実施していることを聞いて、竹林体験を学習指導計画に基づいた活動にできないものかと考え、会員の知人に下関市の梅光学院大学こども学部の中田教授がいたことから、中田先生に協力を求めたところ、ゼミの活動として協力いただけることになりました。現在は、フィールド整備をボランティアが行い、体験学習を梅光学院大学が実施しています。

**活動概要**

令和 3 年度の活動内容は次の通りです。

4 月 10 日 整備竹林 タケノコ堀活動 会員 8 名

4 月 19 日 整備竹林 春のタケノコ堀体験活動 会員 3 名、向陽小学校 2・3 年生 14 名、俵山小学校 3・4 年生 8 名、引率の先生 6 名、報道 3 社、新型コロナ対応として、小学校の児童と一緒にタケノコ堀を行うのではなく、時間差で実施しました。当日はテレビの取材もありました。

5 月 14 日 整備竹林 電気柵の撤収作業 会員 7 名

6 月 12 日 整備竹林 小屋の修理、施肥 会員 6 名

9 月 18 日 整備竹林 草刈作業 会員 6 名

10 月 18 日 整備竹林 小屋の修理・チップ作業 会員 6 名

10 月 21 日 小学校と梅光学院大学 zoom 回線の通信チェック 会員 1 名 小学校 6 名 梅光学院大学 20 名

11 月 27 日 整備竹林 梅光学院大学と小学校の打ち合わせ、体験学習のメニュー作り 会員 6 名 関係者 22 名

12 月 2 日 俵山・向陽小・梅光大 zoom 回線を使った体験学習 会員 2 名、小学校 20 名、梅光大学生 25 名

12 月 18 日 俵山小学校・俵山公民館・児童養護施設「湯の家」の門松づくり 会員 6 名、児童等 7 名、湯の家の子供 6 名

1 月 15 日 整備竹林 電気柵設置 チップ作業 会員 6 名

2 月 19 日 整備竹林 雨のため打ち合わせ 会員 6 名



タケノコ堀体験活動 4 月



梅光大との竹林活動 1 1 月



WEB 会議システムでの体験学習 1 2 月



依山小学校での門松づくり 1 2 月

◆実施に伴う効果

春のタケノコ堀体験活動は、新型コロナ対策で依山小学校と向陽小学校の児童が合同で行うことはできませんでしたが、時間を分けて実施し、子供たちは新鮮なタケノコを掘り取って自宅に持ち帰っていました。整備された竹林内で、自分で掘り取ったタケノコを家庭で料理してもらって食べる活動は、自然環境教育と食育として効果があったものと考えます。

秋の竹林体験学習は、新型コロナの影響を考慮して竹林内での活動を中止し、web会議システムを使ってリモート授業で行いました。依山小学校と向陽小学校では、リモートでの授業を行ったことがなかったことから、事前準備に大変でしたが、竹のクイズを2校で実施してアイスブレイクを行った後、単純な竹細工体験を行い、出来上がったもので音楽を楽しむ活動を行いました。リモート授業をお互いが初めて体験して、お互いにいい経験となりました。竹林内で行う体験学習より、準備も指導方法も大変だったので、直接指導のできる従来方式に戻れることを祈っています。

◆苦労した点

9月に計画していた長門市教育委員会が行うサイエンスフェスティバルでの竹細工教室が、新型コロナ対策の影響で実施できなかったことが残念でした。

とくに苦労したことは、新型コロナ対策のために、春の2小学校合同でタケノコ堀ができなかったこと、秋の体験学習も竹林内で合同開催できなかったことです。依山小学校と向陽小学校は児童数が少ないことから、連携して大人数で体験する活動を作りたいという考えがあったので、これができなかったことは残念です。また、日ごろ接することない大学生と接する活動ができなかったことも残念です。

しかし、秋のweb会議システムを使った体験学習は、今までにない取り組みで、児童も初めて体験する活動で、よかったのではないかと考えます。ただし、準備する方は大変でした。

◆今後の課題・発展の方向性

今後のボランティアの課題は、会員の高齢化と新規会員が見つからないことです。私たちの活動は、令和4年で20年目を迎えますが、会員の更新ができていないのが大きな問題となっています。

会の活動は、安定して、いい活動ができています。竹林体験活動の実施も、梅光学院大学の協力のもといい方向で進んでいます。客体の小学校も依山小学校と向陽小学校で、いい関係を築いています。活動場所や資材の準備をするボランティアの弱体化が問題となっています。新たな会員の獲得に力を入れていきたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

小学生の竹林体験学習サポート活動は、新型コロナ対策で9月に実施予定であったサイエンスフェスティバルの竹細工教室が中止になったのは残念でした。令和4年度の実施に向けて準備を進めたい。

また、初めて行ったWEB会議システムでの遠隔の竹林体験学習は、準備が大変であったが、ボランティア、小学校、梅光学院大学が連携してうまく実施できたのは良かった。

竹林体験学習は竹林内で直接体験することが望ましいが、遠隔で行うweb会議方式の活動もIT利用が進む中、利用する方向で学校側と検討したい。

活動名	No. 21	団体名	須佐地域の魅力再発見プロジェクト実行委員会
須佐地域の魅力再発見プロジェクト		活動拠点	萩市
		代表者	石田 憲雄
		支援金額	28万円

**団体紹介**

若者の地域離れが進み過疎化の一途を辿っている須佐地域。何とか地域と子ども達を結び付け、再び魅力ある地域づくりを目指し、「郷土愛」に満ちた子ども達を育成することを目的に、2019年に学校・地域が一体となる須佐地域の魅力再発見プロジェクト実行委員会が発足した。そして活動が本格的に動き出したが、2020年から新型コロナウイルスの感染拡大が広まり、学校の臨時休業や地域行事の中止など大きな弊害となる一方、プロジェクト事態も頓挫した。そんな中、子ども達は家庭学習を続ける中で、人と接しなくても出来る方法はないかと知恵を絞った結果、VRによる情報発信は出来ないかと思いつき、地域の歴史や文化・史跡・名勝を学習・取材・編集しYouTubeで全国発信した。コロナを逆手にとった子ども達の活動として高く評価され、今後は、更なる地域の魅力を発信して行き、活動を通して、「郷土愛」に満ち溢れた子ども達の育成が、将来の須佐地域を支えてくれるものと考えている。

**活動概要**

コロナ禍ではあったが、子ども達の地域を発信して行きたいとの直向きな努力と姿勢に押され、感染対策に最善の注意を行った活動が展開された。主な活動の内容は次の通りです。

- ・5/13 昨年度の反省を元に、新たな班編成(企画・広報・ガイド)による活動開始。44名
- ・5/10 動画編集講座①「PCを使った初めての動画編集」の開催。(ガイド班)14名
- ・7/16 動画編集講座②それぞれの班のテーマに合わせた動画の元(絵コンテ)をPCで作成(ガイド班)14名
- ・7/23、25 子ども達を支援する大人の地域再発見地域探訪開催。13名
- ・8/18-20 班活動、それぞれが撮影場所に直接出向き現地の確認。延べ35名
- ・8/28 動画撮影VR「ホルンフェルスと高山磁石石の秘密」広報・ガイド班6名
- ・9/2 プロジェクト途中経過の発表。代表者のみ12名
- ・9/29 文化祭発表資料の作成44名
- ・10/6 班活動の開催。プロジェクトの活動は文化祭で発表、動画作品は12月末までに完成を確認。44名
- ・10/23 文化祭にて、魅力再発見プロジェクトでの活動発表を行った。文化祭はオンラインで参加。60名
- ・11/20 動画撮影「龍が通った道(イラオ山～豊ヶ淵)」ガイド班8名
- ・11/28 動画撮影「萩藩永代家老益田家の軌跡」企画・ガイド班9名
- ・12/1～20 編集作業3作品を完成した 延べ25名・期間中、子ども達の会議、実行委員会会議を随時開催。


 第6弾「龍が通った道」(ジオめぐり)編  
<https://www.youtube.com/watch?v=wmYkUUTFTAI>


 第7弾「萩藩永代家老益田家の軌跡」編  
<https://www.youtube.com/watch?v=7yA51opddb0>


 第8弾 VR「ホルンフェルスと高山磁石石の秘密」編  
[https://www.youtube.com/watch?v=fIW3\\_trTUIs](https://www.youtube.com/watch?v=fIW3_trTUIs)

1帯完成作品は携帯で確認できます。



5/10 動画編集基礎講座の開催



7/16 PCを使った絵コンテの作成



10/2 絵コンテをもとにドローンを使った動画撮影



10/23 須佐中学校文化祭を利用したプロジェクト発表

◆実施に伴う効果

- ・実施期間中、多くの地域の方との関わりで、子ども達は地域の名勝や史跡・歴史を肌身で感じることができ、今まで出来なかった地域の自慢を言葉として発することができるようになってきた。この経験を忘れず、将来須佐地域で活かせるよう期待している。
- ・VR撮影(360°カメラ)やドローンといった機材を使うことで、今まで以上に地域の情報が発信できるようになった。また、学校や公の施設では、制限(規制)のあるYouTubeからの発信が地域との連携で可能となった。
- ・子ども達の地域学習意欲が、それを支える大人達にも浸透し、自ら地域探訪などへの参加者が多くなってきた。相乗効果が地域づくりの切っ掛けになることを期待している。

◆苦労した点

ほぼ予定通りの活動を実施できたが、一部分どうしてもシステム上実施できなかった部分があった。

(できなかった部分)

- ・当初予定したVRによる撮影(前年度)と同様な動画撮影を考えていたが、360°カメラとドローン映像との画像の合体がシステム上無理なことが分かり、ドローン撮影「龍が通った道ジオ編」、萩藩永代家老益田家の軌跡」とVR撮影「須佐ホルンフェルスと高山磁石石の秘密」に分けることとなり、最終的には今回YouTubeへのアップは3作品となった。昨年度からの作品を含め、合計8作品の情報発信となった。

◆今後の課題・発展の方向性

子ども達の過去 3 年間の経験を次の学年に受渡し、毎年このプロジェクトを開催することにより着実に、地域を愛する子どもの育成は出来るものと思われるし、事業的な効果は十分に発揮できる。

しかし、児童・生徒を扱う学校(教職員)も毎年人事異動があり、今は非常に地域に協力的であるが、相手(教員)があつての事、心配な部分がある。

引き続き、地域の盛りあがりをおま継続し、地域の活動の一つとして取り組むことを期待している。子ども達が、地域を知り、地域をしっかり見てくれることにより、将来の地域の在り方について期待したいものである。

◆活動を終えての感想・意見等

今回の支援誠にありがとうございます。

こうして地域や子ども達の活動の支援を無駄にすることなく、今後も幅広い情報発信をして行きたいと考えています。まだ、活動は始まったばかりです。今から4年目、5年目を迎え、近い将来子ども達が地域の魅力を再確認し、一回り大きくなって帰って来るような地域をこれからもみんなで創って行きたいと思っています。

コロナ禍、やり難い面も多々ありましたが、こうして活動できましたこと、改めましてお礼申し上げます。

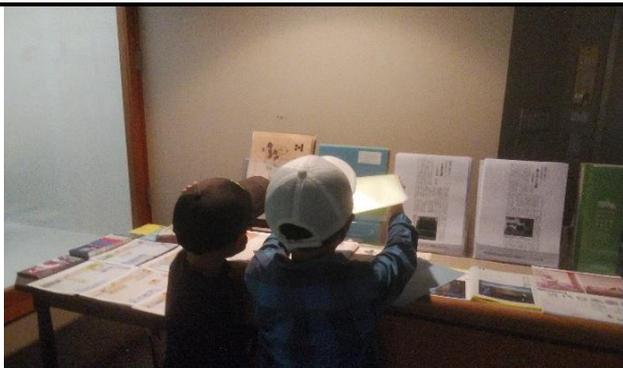
活動名	No. 22	団体名	古文書を読む会
ほうふのれきしを知ろう！なぜ？なに？ ～ミュージアム for キッズ～		活動拠点	防府市
		代表者	工藤 修治
		支援金額	10万円

**団体紹介**

古文書を読む会は、防府図書館研修室で、毛利博物館所蔵の古文書の解説とその時代背景を学ぶ生涯学習講座です。当会は昭和58年(1983年)に開講しました。平成15年1月11日からは毛利博物館学芸員(現館長)の柴原直樹先生が講師です。毎月第2土曜日に月1回の古文書講座を行っています。会員は毛利博物館所蔵文書をテキストに、古文書を学習し、毛利氏の活躍した中世(室町・戦国・織豊期)から近世(江戸時代～幕末期)を当時の軍事・政治・経済背景を知り、毛利家当主とその家臣・領民らの置かれた立場を通じて歴史を学んでいます。令和2年から当会のボランティア活動は、「ミュージアム for キッズ」をテーマに活動を始めました。令和3年度はマツダ財団市民活動支援金のサポートをいただき、活動を前進させることが出来ました。少子高齢化の時代、人口減少傾向にある地方都市の活性化のために、地域社会の歴史を学び、次の世代に地域の歴史を正確にわかりやすく伝えていくためにこの活動を行う意義があると考えます。「ミュージアム for キッズ」の目指すものは、楽しく面白くそして身近な地域の歴史を、次世代を担う子どもたちに伝えていくことです。歴史を堅苦しくなく、遠い昔の話ではなく、その人物や事柄を親しみやすく生き生きと感じ取ることのできるように、まずその手始めに塗り絵の配布と工作教室などのワークショップを開催しました。

**活動概要**

古文書を読む会としての活動は、毎月1回、第二土曜日に防府図書館研修室にて午後2時から4時に古文書を解説、学習する講座を開催。古文書を読む会のボランティア活動としてのミュージアム for キッズの活動は以下の通り。4月29日オンラインにて開催されたマツダ財団第37回市民活動支援贈呈式に参加。ボランティア3名  
5月2日毛利博物館第2展示室パンフレット配布コーナーに塗り絵セットを置く。4回に分け年間計250部配布。5月5日児童養護施設防府海北園様へ幼・小学生サイズ家紋柄マスク20枚家紋柄ベビースタイ(よだれかけ)20枚を送付、7月19日毛利元就肖像画塗り絵改訂版を作成、配布。7月29日 防府市ルルサス夏休み体験教室 ミニ掛軸ふうたペストリーをつくろう 工作教室 参加者2名 会員ボランティア2名。8月27日オンラインでの活動団体交流会。活動の中疑問に思っていることや、各団体の悩みなども話を聞くことが出来た。1名参加。10月の防府市民活動フェスタ、11月のワークショップコレクション in やまぐちはコロナ変異株などの状況を考慮し参加を辞退した。11月毛利博物館所蔵の国宝高野切巻八の和歌たちわかれ～のなぞりがきを試作。12月イベント、バザー用に作成した家紋柄マスク50枚は、会員はじめ希望者に配布、活用して頂くことにした。モニターとして使用して頂き、アンケートに回答してもらい、使用感など感想や意見をフィードバックすることが出来た。令和4年1月毛利博物館所蔵の肖像画をもとに、毛利元徳、安子夫妻の衣冠束帯、小袷姿のひなまつり塗り絵を作成。2月23日オンラインでの終了式に参加。ボランティア3名参加。3月毛利公爵夫妻ひなまつり塗り絵を毛利博物館第二展示室パンフレット配布コーナーに置き、配布する予定。3月3日児童養護施設海北園に幼児用マスク20枚とベビースタイ20枚を寄付し使用して頂く予定。塗り絵作成は中高生ボランティアの意見を参考に、子どもたちが主体となって、デザインを決定した。パソコンでの作業、印刷作業や個包装などの作業も一緒に担当させた。



毛利博物館第2展示室 こどもの日にあわせてぬりえを置きました



家紋デザインのぬりえ、個包装してあります



2021年7月29日ルルサス夏休み教室では  
透明アクリルパーティションを活用しました

家紋柄幼児用マスクとベビースタイ(よだれかけ)

#### ◆実行に伴う効果

歴史をテーマにしたボランティア活動を行うことで、古文書を読む会ってどんな団体なんですか？、こんなこともしているんですね！とミュージアム for キッズの活動を通じて他団体や市民の皆さまに会の活動やその意義を知っていただけることができた。絵やイラストを自分で描くことのできる小学生には歴史人物の装束の細部、その前段階の就学前の幼児には家紋の形や構成から完成されたデザインに色を自分で塗り加えることで造形の楽しさを体験できると考えた。

#### ◆苦労した点

ワークショップや体験教室の工作は、今後も試行錯誤をしながら、費用をかけ過ぎずに尚且つ和の文化や伝統を感じ取ることのできるものを工夫したい。参加者にやってみたいと思わせる魅力的な体験活動を作り出すことに苦労した。制作プロセスの分かりやすい説明や情報発信には SNS の活用も今後検討し、参加者数の増加を図りたい。難しそうと敬遠されないように質も落とさず楽しい体験プログラムを造りあげることが一番大変だった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

コロナ対策としては、とにかく会員や参加者からコロナ感染が出ないよう、消毒など基本的な対策を徹底する。パーティションを設置し活用する。配布する塗り絵、マスクは清潔に留意し透明フィルム袋に入れ個包装する。今後はまず塗り絵配布をこれからも続けてゆき、家紋柄マスクはイベントなどでのバザー販売、希望者へは配布するなど活用してゆきたい。可能な範囲で家紋柄マスク作成を続け、こどもから大人までマスク使用を徹底するための一助となりたい。予算に余裕ができれば、オリジナルの家紋デザインの布地を作製することも検討している。家紋マスク使用モニターからのアンケート結果を今後のマスク作製への参考にしたい。工作教室やワークショップでは、当初参加費が高いと敬遠されたためか、参加者申し込みが少なかった。会の活動を分かりやすく周知し、歴史や和をテーマにした工作やワークショップへの参加者を増やしたい。他団体との連携やボランティア受け入れについては、コロナ感染対策が確立し、新しい変異株の出現などがなくなり、収束した状況になれば検討したいと考えている。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

防府市民にとってマツダ株式会社様はとて身近な企業です。工場見学、船積み見学会など市民が参加できる行事を様々に開催して来られました。今年度古文書を読む会「ミュージアム for キッズ」の活動にご支援をいただいたことは大きな励みになり、活動の歩みを進めることが出来ました。心よりお礼申し上げます。年々、こどもたちは困難な状況に置かれていくように感じます。豊かさを失っていく今の日本において、こどもたちのこれからが心配です。こどもたちが心の豊かさを維持するために、近くの博物館を訪れることで、自分の身近な環境から、良質な学びをすすめて、未来に繋がる学術的な興味を持つことの一助となる活動を、これからも試行錯誤の上、続けたいと考えております。

活動名	No. 23 (2020年度採択)	団体名	ハーブねっと本部
<b>殖生地区の「ねがいをカタチに」</b> <b>～地域×学校をむすぶ、まちづくりの実践～</b>		活動拠点	山陽小野田市
		代表者	城戸 邦之
		支援金額	33万円
団体紹介	<p>・結成時期：平成28年4月結成</p> <p>・構成メンバー：学校関係者（管理職、地域連携担当教員）、地域住民（地域団体役員ほか）、公民館長</p> <p>・結成目的、活動方針：地域の子どもたちが予測不能な未来を生き抜くためには、あらゆる立場の人々との関わり合いや、多様な体験活動の積み重ねが必要不可欠である。一方で、少子高齢化の進む地域では、地域そのものの存続が危ぶまれ、潜在する地域資源が埋もれてしまうことも少なくない。「ハーブねっと本部」は、将来を担う子どもたちの育成とよりよい地域づくりに向けて、殖生地域の核となる人材同士が本音を対等に語り合える場所として設置した。地域資源を活かして、今に必要な「学び」を協議しながら、子どもたちを地域の一員と捉え、学校・家庭・地域が協働して支え合う取組を推進している。また、そこに関わる大人たちも共に学び、考え、活動していくことで、殖生地域の一体感の醸成、地域教育力の向上に寄与することを目的としている。</p>		
活動概要	<p>【ハーブねっと本部会議】（本部委員、年3回、公民館、学校にて） 地域の情報交換や殖生地区の「学び」による人づくり、地域づくりについての協議。</p> <p>【地域と学校を結ぶ活動】「起業体験」～殖生小中オリジナル米（もち米）の育成、販売～ （時期）令和3年4月～11月 （内容）・区内農家やJAからの支援を受けながら、もち米を育成（播種～田植え～稲刈り、脱穀） ・品質表示や価格設定を学習しながら、子どもたち自らが公民館でのふれあい祭りにおいて販売</p> <p>【課題解決活動の実践】 （活動）「みんなのねがいをカタチに」～殖生地区のクリーンアップ活動～ （時期）令和3年10月11日（月） （参加者）中学生 98名、地域住民 約 20名 （内容）・プレ実施時のワークショップでの意見を受けて、中学生が活動を企画。 ・新型コロナウイルス感染症に配慮しつつ、区内3カ所で清掃活動を実施。 ・場所決めも全て生徒が行い、地域の大人たちと協働して取り組んだ。</p> <p>【情報発信】“地域×学校”をむすぶ「ハーブねっとカレンダー（仮称）」の作成（予定） （目的）殖生地区としての一体感の醸成、子どもたちも地域づくりの第一線で活躍できることをPRする。 （時期）令和4年3月 （内容）地域や学校の情報を取り入れたコミュニティカレンダーの作成。</p>		



J Aや地域の方の指導のもと、田植えを行いました。



収穫の喜びを感じながら、稲刈りを行いました。



中学生によるクリーン作戦です。地域の方と一緒に行いました。



公民館のふれあい祭りで、もち米を販売しました。

#### ◆実施に伴う効果

- ・学年に応じた形で地域を知り、地域を考える機会を得ることができた。大人と一緒に将来の地域像を考える貴重な経験につながった。活動の中で、この地域のブランド（宝物）を発見し、自らの手で作り上げ、新たなブランドとしていく取組が垣間見られた。
- ・話し合いから活動までの一連の取組が、学びのアウトプットにもつながっている。子どもたちが力を発揮できる環境を整えようと、少しずつ地域側にも自発的な動きが見られるようになった。
- ・体験的な活動に、子どもたちは笑顔で取り組む。この姿を大人が見て、大人も笑顔で子どもたちとともに活動する。埴生地区における一体感のようなものを感じることができた。

#### ◆苦労した点

- ・子どもたちを中心とした取組の中で、学校と地域にとっての優先順位が異なることがあり、この部分をいかに調整していくかであった。話し合いの段階で、これらの目線をどのようにして揃えるかがポイントである。地域をより良くしたいという思いはお互いに持っているため、学校にとってもプラスとなる地域活動や地域にとってもプラスとなるよう思いを含めて活動を調整していく必要があった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ワークショップなどの活動に制限がかかり、計画通りに実施できなかった点があった。特に、当初計画していた大人と子どもが話し合う機会については、学校運営協議会を活用しての協議にとどまった。一方では、地域にある小・中学校が小中一貫校であることから、小中学生の交流は比較的進んでいることや、小学生と大人、中学生と大人との活動が増えてきたことも挙げられる。小中一貫校と地域づくりの拠点である公民館が隣接している強みを生かした活動に、地域の発展の要素が含まれているように思う。また、取組に関係する人材を増やしていくことで、こうした経験が新たな市民活動を引き起こす一つのきっかけとなればと思う。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・計画の大半が感染症の影響を受ける中で、マツダ財団の柔軟な対応により何とか活動を維持することができた。この度の助成をきっかけに、自分たちの活動を後押しし、応援してくれる存在の大きさを感ずることができた。
- ・子どもも大人も地域の一員として埴生地区だけでなく、埴生中校区全体に広がる活動へとつながる。一部活動が中止になったものもあったが、実施方法の変更などで対応していきながら、明るい未来を創る子供たちの育成と、自然を生かした思いやりを笑顔あふれる活気に満ちた地域を目指して、Win-Win、Will-Win の関係を構築できるようにしていきたい。今後も子どもたちと大人が地域の未来について語る機会と、そこで出た思いや願いを形にできる取組を実践する中で、将来を担う子どもたちの育成とよりよい地域づくりにつなげていきたい。

## 2. 終了時交流会

コロナ禍が続く中、今年度の終了時交流会も昨年同様オンラインで開催しました。今年度終了予定の研究者3名（全国）と市民団体（広島県15団体、山口県8団体）を始め総勢70名を超える多くの方々にそれぞれの拠点からオンラインでご参加いただきました。

恒例となりました明石先生の基調講演では、「団体の活動活性化に何が必要か」と題して、『少年ジャンプ』がヒットした理由やヒラメの水槽にアナゴを混ぜて輸送するとヒラメの生存率が高まる等、ユニークな例を取り上げてお話をいただきました。

コロナ禍でも研究・活動を完遂された研究者、市民団体の素晴らしいご報告を聞かせていただき、また、パネルディスカッションでは、緩やかに繋がることの大切さを確認しました。そして、来年度もマツダ財団が、市民団体の皆様が気軽に集える場をご提供することを約して、今年度の交流会を無事終了しました。

### 2021年度「青少年健全育成関係 研究&市民活動 終了時交流会」式次第

日時：2022年2月23日（水 祝）14:00-17:00

場所：オンライン Microsoft Teams

実施内容：

- ・ 基調講演（選考委員 千葉敬愛短期大学学長 明石 要一様）  
“団体の活動活性化に何が必要か”
- ・ 研究者報告（3名）
- ・ 団体活動報告（4団体）
- ・ パネルディスカッション  
テーマ：「市民団体のネットワークは必要か？ 繋がることは可能か？」

タイムスケジュール：

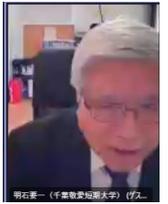
14:00	開会宣言 参加者紹介
14:10	理事長挨拶（菖蒲田理事長）
14:15	基調講演（明石先生）
14:30	研究者報告（3名） 報告10分・質疑応答2分
15:15	団体活動報告（4団体） 報告8分・質疑応答2分
16:10	パネルディスカッション
17:00	閉会宣言



理事長挨拶

## 6 異文化メンバーの受け入れ

- 長崎から築地までヒラメだけを運ぶと2割近い魚が死ぬ。そこに「アナゴ」を入れると死ぬ魚が「1割」になる。なぜか。異なった魚が混じるとヒラメは緊張する、という。
- 各団体は異文化を持ったメンバーをどれだけ受け入れているか。「みんな同じ、みんな一緒」の文化に染まっていないか。持続する組織は異文化と共存している。多様性を受け入れているか



基調講演

**\*研究の背景と目的：子供を取り巻く環境\***

外遊びの減少  
集団遊びの減少  
後ごっこ、木登り等の外遊びが中心  
テレビゲーム等の室内でかつ少人数での遊びが台頭

家庭環境の変化  
しつけの低下  
親、兄弟の責任や子供に対する要求  
家族間の刺激の減少、一人の子供に対する親の期待の過多(過小)

**体験活動の場や機会の減少**

他人への無関心  
教育  
年代差  
増す

強制されない自由な体験活動  
遊びの創出  
遊び場の減少、交通事情の変化に伴うプログラム化された活動の増加

**研究報告**

他人の子供への無関心、教育に対する困難さ

さいごに

**市民活動報告**

浅 庄 H弓 佐 福 松 高 備 村 チ ビ 上 佐 ぶ +45 MS

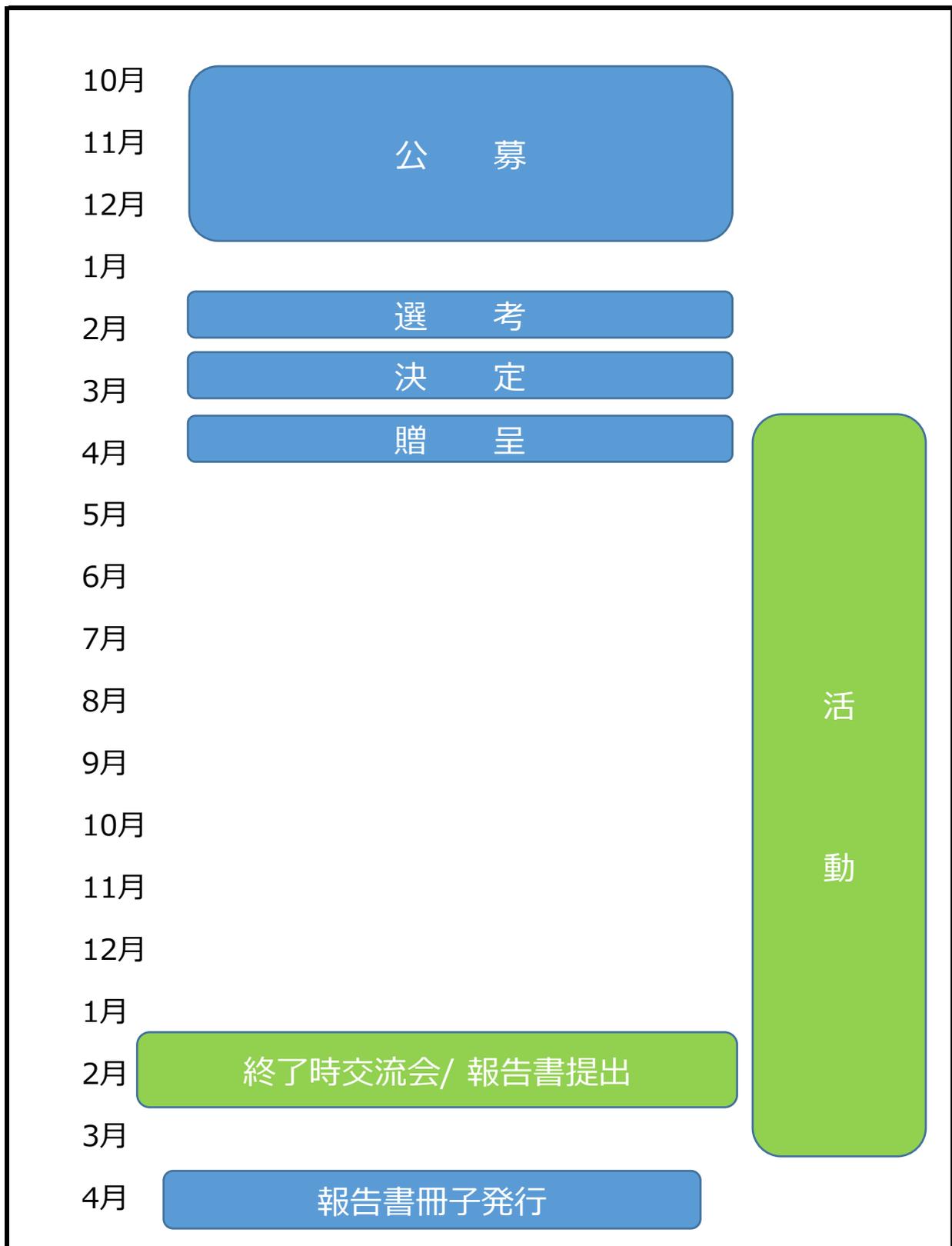
浅井 敬史、庄 正吉、HCP弓立、佐藤文昭(ゲスト)、福本英伸、松 和典(ゲスト)、高橋昭(ゲスト)、備前朝日、村上 浩二、チム立上、山崎バート、上原拓真、佐佐 沙貴子、ふのり子と...

**パネルディスカッション**

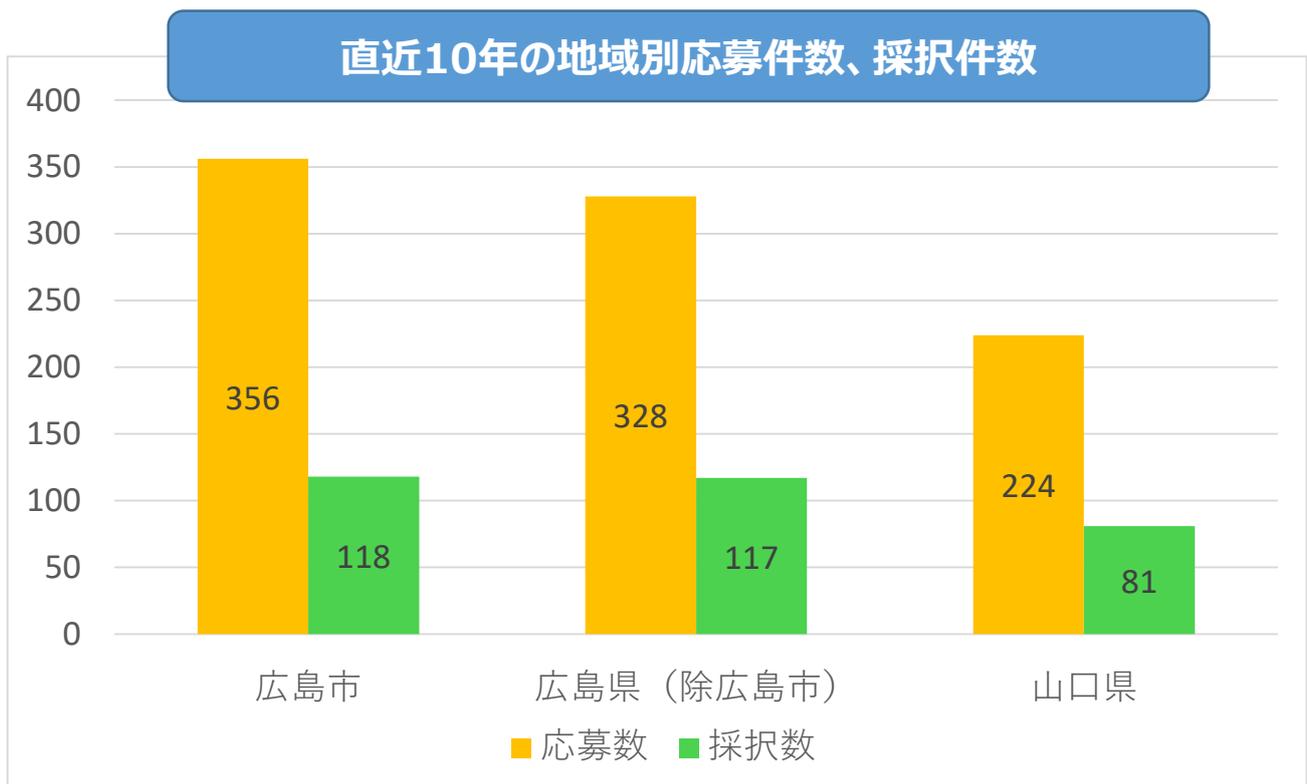
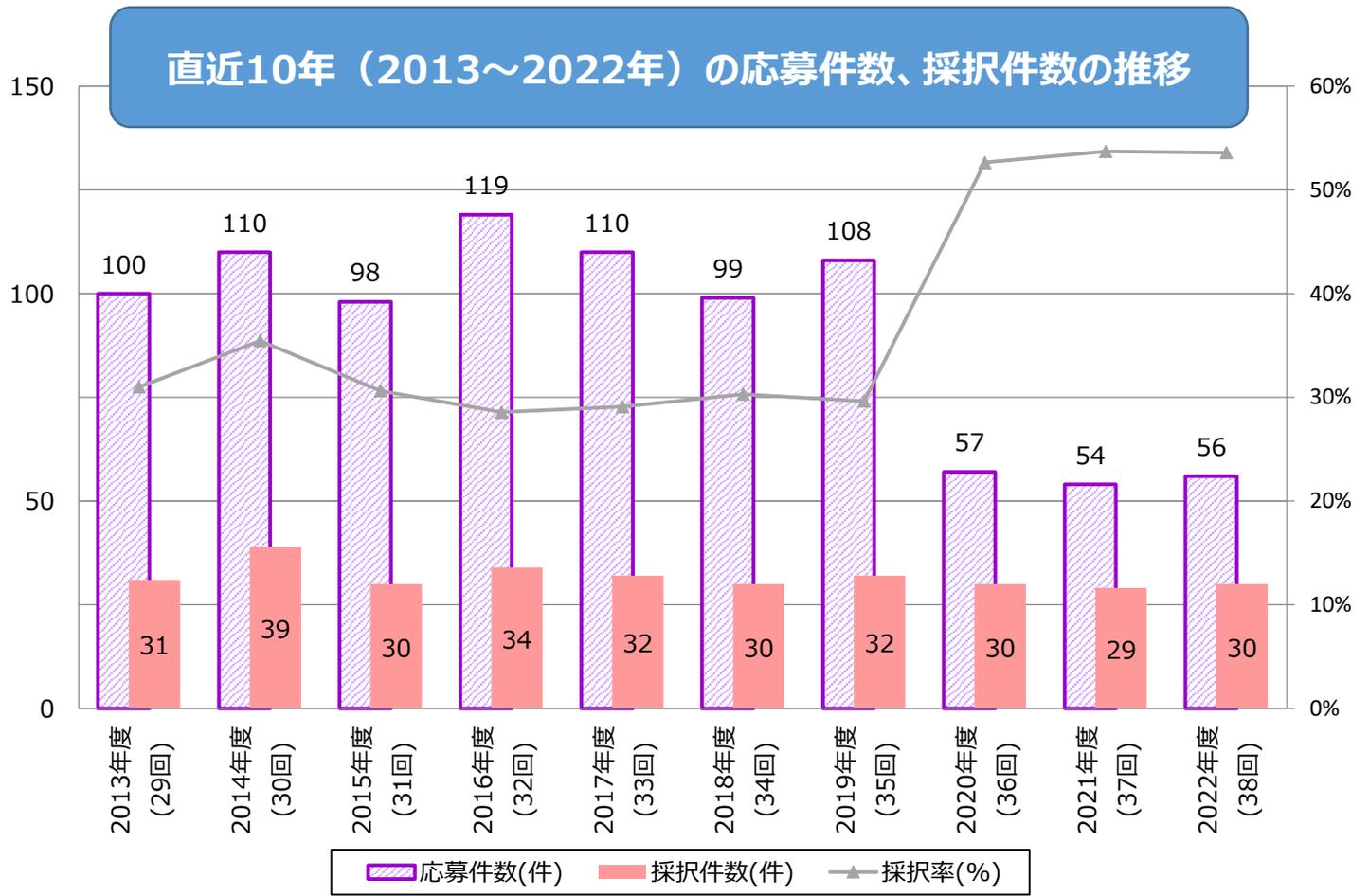
備後音頭をつな... かわ子ども食堂... ひろしま美術研究... HCP弓立... 山口災害救援 杉本... 山田愛華 近畿大... 近畿大学 加島 (... 川田 和典... 圓炬裏の会 竹田... 明石要一(千葉敬愛... 高橋超(ゲスト) ピアサポート子寓... 竹林ボランティア... 工藤美佐@山口災... 近畿大学工学部... 津森 正裕 瀬戸... Ryoko NAKANO (... HCP古田(こた)(ゲ... 上野道博... 庄子 佳音... 上原拓真... 村井 啓太... NODA(ゲスト) 江波地域共生社会... 里山暮らしネット... 佐世 沙貴子... Inoue Toshifumi (... 須佐魅力再発見ブ... ティム巨っこ(チム... 福本英伸(ゲスト) 浅井 秋草短大 (... 露澤 侑汰... ロボカップジュニ... 浦田 府中町少年... obara(ゲスト) "めがねピクニ... 瀬川 海... 山口せわやきネッ... Yamauchi Makoto ... ハーブねっと本部... 松林 (YAMATOく... 松岡(宿題やつつ...

集合写真

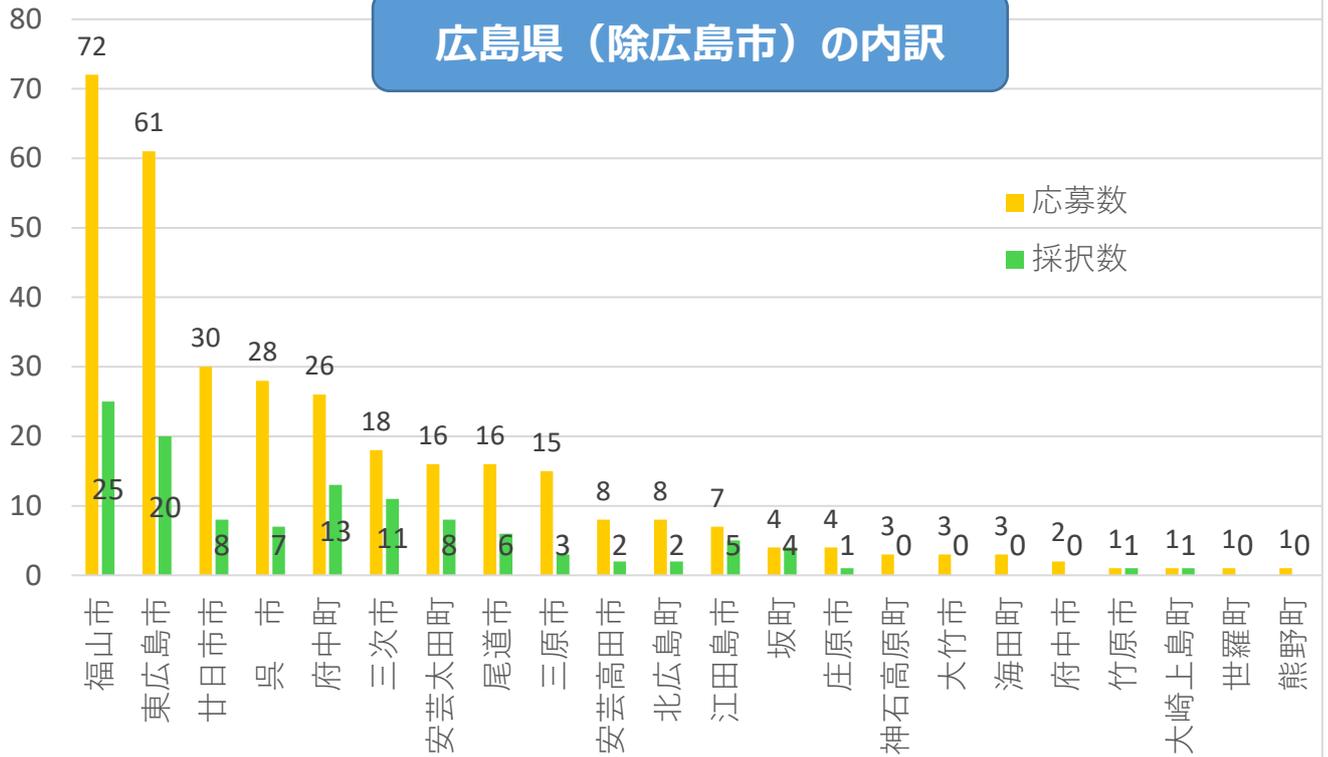
### 3. 公募～報告書冊子発行までの流れ



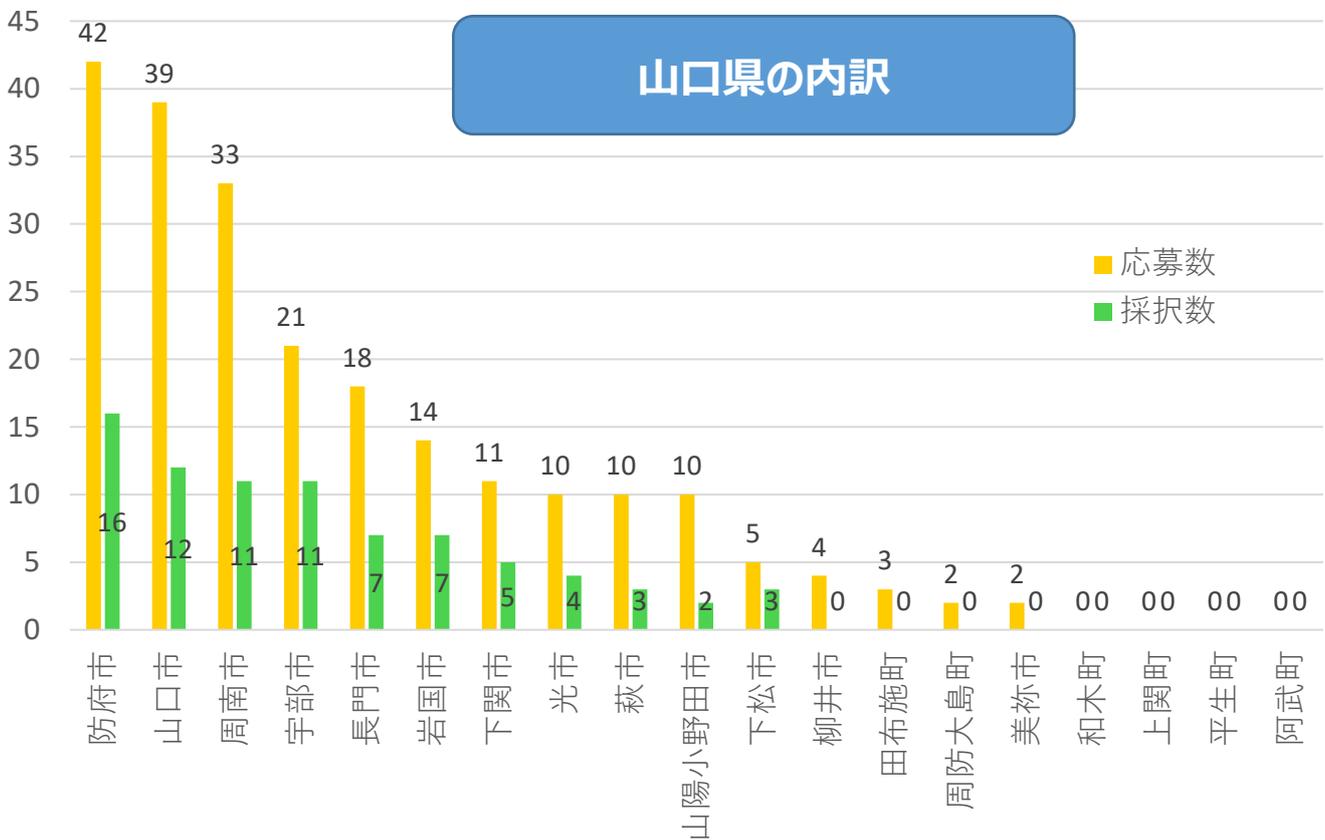
#### 4. 応募&採択に関するデータ



## 広島県（除広島市）の内訳



## 山口県の内訳



マツダ財団の活動内容等詳細につきましては  
当財団のホームページをご覧ください。  
<https://mzaidan.mazda.co.jp>



---

## マツダ財団支援 第37回（2021年度）市民活動報告書

---

発行者	公益財団法人 マツダ財団 〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3-1 マツダ(株)内 電話 082-285-4611 FAX 082-285-4612 e-mail <a href="mailto:mzaidan.sj@mazda.co.jp">mzaidan.sj@mazda.co.jp</a>
発行日	2022年4月
印刷	マツダエース(株)

---

公益財団法人マツダ財団